

明治四十三年

(二月)

一月一日 丙寅 土曜 四方拝。

朝六時起。洗面。衣服を改めて、天神地神、天皇后両陛下、祖先を拝して、椒酒雑煮を祝ふ。志賀氏一同、御礼に御出ニ相成たり。昨夜よりの大雨にて、実に世の塵を一洗して、心地よし。旅客にての一月元旦を向ふ、実に珍らし。已而天晴。朝十時出發。帰京す。志賀氏、予、正子、鈴江、靖子、早苗、きり子と共に散歩して、これ喬親王木の宮神社ニ参拝して、海岸に添て一茶亭に憩ひ、写生して、所々の真景を眺望す。暖気四月の如し。皆羽織を脱て、よせ来る波を見つゝ帰、十一時三十分。午後、予、一同と共に、浦氏を問ふ。喜び限りなし。御椒酒、其外、叮嚀にもてなし、暫く遊びて、日晡帰る。夜も賑々敷、面白き遊びあり。弘、十時、東京より帰りぬ。

*元旦を向ふ(元旦を迎ふ) *これ喬親王(惟喬親王)

一月二日 丁卯 日曜 晴朗。

早起。日の出見事なり。写生す。正子、靖子、早苗と湯本ニ行。夕景帰る。午下二時、泰、寿子、東京より来る。夜、志賀氏にて、トランプにまけたる人ハ、予の面前にて惹し芸をする。と云。大さはき也。

*トランプ(トランプ) *惹し芸(慳し芸) *大さはき(大騒ぎ)

一月三日 戊辰 月曜 晴。

朝、日の出見事也。十時、志賀氏一同、跡見一同、其外大学生等、前日より廻文来りて、本日之園遊会ニ承諾之人々打揃、石橋山、佐奈田義忠与市之神靈ニ登り、堂の辺り、南面、極々暖かき場処、縁台或ハゴザを布て、竈を拵へ、湯を焼き、宴はしまる。鍋を懸て、薩摩汁をたき、肴を焼き、ビール酒も有て、昼餐をしたゝか喫す。合作、或ハ咄し等にて、実に此山間みかん山より、海上万里之眺望面白く、此時、横浜石井謙吾夫婦も来り、惣勢廿三人也。午下四時、山を下りて帰りぬ。留守中、浦四三子と嬢と来りぬ。又丹羽花子、其嬢、外ニ二人供にて来る。夜十二時迄、種々語り合ぬ。

*ゴザ(葎) *焼き(焚き) *はしまる(始まる) *たき(炊き)

一月四日 己巳 火曜 晴。

朝十時より、志賀氏同道、十九人連にて、散歩して、宝珠山海蔵寺禅宗に参る。寺中ニ梅花あり。夫より小峰公園に行、大久保神社社務所に東郷氏を訪ふ。一同休憩。梅花満開もあり、未星の如く転々たるものもあり。一時過る比迄遊び、町え出て、買物して帰。丹羽

花子さまニ誥別して帰。來客、浦月子、土井田鶴子。

* 転々たる (点々たる)

一月五日 庚午 水曜 雨。

朝、日の出よし。拝して後、海岸に写生して帰る。雨ふり出し、志賀氏を問ふて遊ぶ。雨中なから、終日面白く遊ぶ。夕景、雨止。書写す。

一月六日 辛未 木曜 晴。

朝、日の出拝む。正子、靖子、小田原町に行。此朝、李子、静を連れて来る。午下二時より東郷男之誘引にて、此行三十五人也。風祭村中野氏二行。主人之風流、実に可思。山荘ニ入ル也、二口の滝あり。溪流センクワン。玄関ニ入ル。広座ニ通ル。円空堂と云。掛物ハ円空一降書、名幅。瓶アリ、舜の世、土中より出しもの。国宝につくもの也と云。其次、支那館。イロリに円鸞す。大幅、人物耳を澄す。脇に大木鉢に椿子、仏子甘、林檎、露のトウ、百合等、見事にも(ら)れたり。奈良朝より東洋之妙味を尽したり。湯殿、雪隠、台所迄、至れり尽せり。四時★(日十甫)時、誥別して帰。此朝、根岸伊東氏一行帰京。
* センクワン (潺湲) * つく (次ぐ) * イロリ (囲炉裏) * 円鸞 (団鸞) * 仏子甘 (手柑) * トウ (臺) * もれたり (もられたり)

一月七日 壬申 金曜 晴。

朝、日の出を拝み、十時より、予、及一同八人連にて、箱根塔之沢ニ(衍)行。鈴木環翠楼にて湯に入り、午餐して、ゆるく遊び、四時帰。李子、靖子、途中より浦氏二行。志賀氏、帰京せられたり。九時、李子、靖子、鉄千代さまと帰る。

一月八日 癸酉 土曜 晴。

朝、日の出麗はしく、李子外一同と海岸に遊ぶ。來客、浦氏隱居御出にて、種々物語り、そこ々々にして帰らる。予、閑院宮御成り処に参る。各殿下、昨日御帰殿也と云。一昨日ハ大そう御待兼のよし、御家来申される。暫時にして帰る。午下二時、李子、静、帰京す。正子、寿子、鉄千代さま、電車迄送る。

受信 軍艦敷島加茂巖雄より、東美子、五日午後七時、男子安産。

一月九日 甲戌 日曜 晴。暖。

朝、日の出を拝み、写生する。出発之準備する。九時半、一同に暇を告げて、予等の行六人、志賀氏四人とにて、電車迄、徒歩して行。角田真平君、四三子も同行にて、大賑々しく、国分津より汽車にて、先買切之如く、暖気三月の如く、種々談話中に新橋着。石山氏、及下部、車迎ひのもの来り、二時帰宅す。一同、設けの昼飯とうへ、先々珍らしく嬉しかりけれ。

*国分津(国府津) *とうへ(食べ)

一月十日 乙亥 月曜 曇。

始業式。午下一時より庭上に式場を設け、校長告辞を朗読す。君か代、校歌、一、二、三、四、五年の唱歌ありて、式全畢。余興、福引。唱歌、ヲルガンにつれて一同唱ひ、曲畢る時、景物を目かくしして取ると云。頗る面白し。廿人つ々の組にて、うたひまはる。此日会する者、二百八十人。四時散会す。

*かくし(隠し) *うたひ(唱ひ)

一月十一日 丙子 火曜 雪、七寸計。

課業始めをなす。

一月十二日 丁丑 水曜

課業例の如し。

一月十三日 戊寅 木曜 雨。 予定 霞ヶ関大谷様、御謡会。

朝、新聞にて西村喜三郎氏死去のよしにて、直に駿ヶ台の宅に悔に行候処、もはや昨夕五時、横浜えつれ行候よしにて、直に帰る。午下一時より大谷様え参る。御謡初会にて、御客は徳川公、岩倉公御夫婦、九条公御夫婦、蜂須賀侯、津軽侯、其外、伯、子、三十人計。素謡八番、囃子、仕舞、一調、大小などにて、五流派共揃ひにて大はつみ。持寄福引もあり面白き事也。帰宅十二時。

*駿ヶ台(駿河台) *大はつみ(大弾み)

一月十四日 己卯 金曜 曇。夜、雨甚し。十二時過より雪になりたり。

課業畢。原春子来る。午下一時より平河町石山氏を訪ひて、閑院宮様え御年礼に参る。宮様、御息所様を御はしめ御揃被遊、拝謁仰付らる。小田原旅行中之御はなし申上る。御合のもの御側にて戴き、御反物、予、及李子えも戴て退る。三条家に行て、高子様の御悔み申上る。奥方様に御目にかゝる。治子様御違例にて少し御様子御替りの様にて、御面会ハみな御断り也。已而帰。

一月十五日 庚辰 土曜 吹雪。

課業例の如し。

一月十六日 辛巳 日曜 雪と雨。 予定 西村喜三郎氏葬儀、午前十時。

早朝より、李子、石山氏、西村会葬二横浜へ行。予、午下一時より大炊御門氏二年始を申す。祝酒雑煮を呼はれ、姉小路えも年始を申して、九条家二行。道実公御誕辰にて、御親

戚、知友之人々にて、先余興數番ありて、立食中福引せらる。予ハ、宮城の信夫と云立派なる鏡台を当る、大喝さい。御客様、山科宮三殿下も成らせられる。午下二時より空全く晴て日影をみる。夜八時帰宅。早朝より、沼、蒲生兩人誘ひ来りて、泰、獵に行て、夜九時帰。船にて、一羽も得られず、難風にかゝりて、雨はふる、帆柱ハ折れ、食物ハ委く流れて、蓋とうから襦袢迄濡れて、漸船頭の宅に着。衣類、火にあぶりて焼こげ甚し。然し先、命ひろひして、めてたし。

*宮城の信夫(宮城野信夫) *大喝さい(大喝采) *山科宮(山階宮) *委く(悉く) *蓋とう(外套) *襦袢(襦袢) *あぶり(焙り) *ひろひ(拾い) *めてたし(目出度し)

一月十七日 壬午 月曜 晴。

課業例の如し。

発信 青森吉田知吉え。大宮智栄え。河村はるえ。

一月十八日 癸未 火曜 曇。

課業例の如し。小包郵便にて、木津跡見、願泉寺、遠藤、青木、木田、津田、寺田二軒、美尾野え端書と品物出す。

(二月十九日、二十日、記載ナシ)

一月二十一日 丙戌 金曜 雨。 予定 橋岡来る。

朝、原春子、稽古す。課業畢る。準備ニいそかし。朝、清水初子より電話。父死去の由申来。直二正子出向る。福引文句ニいそかし。夕景、突然神代来る。急成る要用にて上京する。先、酒肴を出してもてなす。夜九時頃帰。当時宿とめる事出来ず、気の毒ながら、雨
小林氏え帰。夜十二時迄ニ漸福引出来す。

*いそかし(忙し) *いそかし(忙し)

一月二十二日 丁亥 土曜 午下雨。

泉会発会執行。朝より準備。裁縫教場に舞台を出来、脊景に雪の山、所々に松の木を植へ、雪を持せ、舞台中雪にて、雪中に最中の福引札入たるを 雪中之宝堀と云、其上に景物をかゝける。一時始にて、雨中ながら続々来る。校長挨拶、李子、泉会之趣旨をのへ、畢而余興。燕林、俄にさしつかへ、落語、西洋手品面白く、二番済て福引、百三十五番迄、実に興味ありて妙々也。五時より食堂開く。かるた汁、コツタ鳥、松竹梅口取箱入、めて鯛めし、香の物、菓子、鶯宿梅、鶯もち、紅梅餅、みかん、せんへい、日本一きひ団子、一同賑々敷食事済、退散八時過。月出、空晴たり。

発信 東洋婦人会、婦人法話会、戊申倶楽部え、皆断。

* 脊景 (背景) * 雪中之宝堀 (雪中之宝堀) * のへ (述べ) * 鯛めし (鯛飯) * きひ
団子 (黍団子)

一月二十三日 戊子 日曜 晴。

課業例の如し。午下一時より宮城へ参り、姉小路良子様御局にて御年詞申上。予、正子、早苗と三人連也。早苗ハ御奥(え) 参る様にとて、新樹典侍様仰せられて参る。皇后宮より紫縞縮緬一反と御袖入、花蹊えとて白紋縮緬一疋、金の御文鎮一对、御菓子拝領仰付らる。良子様より白羽二重一反、外ニ御添物等、正子も同しく、早苗えは紫御鳴海御仕舞召戴。四時過る比迄、種々御物語申上て帰る。

一月二十四日 己丑 月曜 晴。

課業例の如し。倫理聞く。来客、吉田貞子、今津暉子。源氏物語色紙帖、画ハ土佐光則之筆、文章ハ其当時之高貴之人々の筆也。今朝、電話にて松永信子死去の由申来。直ニ李子悔みに行。正子、泰、沼氏と、津田の家見ニ行。

受信 木津跡見、御寺御所、遠藤、青木、近万、みをの。

発信 御内儀、姉小路さま、佐野新子。

* みをの (美尾野)

一月二十五日 庚寅 火曜 晴、后曇。 予定 海事協会新年会。

課業例の如し。午下早々、角田氏二年礼ニ行て、万代子の拵等をみる。よく万端とゝのひたり。二時過より海事協会ニ参集す。會長毛利安子様、鍋島栄子さま御出席。互礼済て、理事長之演舌アリ。余興の替り福引あり。畢て食事。四時済て帰。夜に入て雨又雪。来客、新田母。

受信 津田弘視より書至。又々帰朝五月頃と云。

一月二十六日 辛卯 水曜 雪六寸。

課業例の如し。李子、松永信子遺骨を送る。新橋十二時三十分。国元にて葬式の都合也。来客、長尾収一氏。寿子の眈★(言十察)を乞ふ。格別の事なきよし、安心す。

発信 台湾賀田氏え。大坂岡島さゐ。

* 眈★(言十察)(眈察)

一月二十七日 壬辰 木曜 晴。

課業例の如し。来客、石山吉子、元奥山愛子 仁井田増太郎妻。

一月二十八日 癸巳 金曜 晴。暖し。 予定 石井氏結婚式。正午十二時半、新橋行。

朝十時出門。予、李子と同しく、新橋十二時卅分汽車にて横浜行。角田夫婦、まよ子、竜

雄、志賀氏夫婦と同行也。着、石井氏より大勢迎ひの人々来、車の用意もよく、直に乗て石井氏二行。一同の出迎ひにて、扣間に通る。縁女の拵に、李子、鉄千代大いそかし。角田の不準備に一同困りたり。漸拵も出来、広間の式場に、己れは立合人の格にて席に就く。三々九度済、次親子兄弟の杯ありて、後宴、一同着席。親戚一同すへてよく準備整ひたり。八時三十分汽車にて開かれたり。予、李子ハ原氏より馬車の迎ひにて、三ノ谷へ行、一泊す。

*扣間(ひかへのま) *いそかし(忙し)

一月二十九日 甲午 土曜 晴。

朝飯後、一同と梅園逍遙す。梅花の盛りもあり。極の満開ハ二月末とか。はしめ、待春軒にて茶をのみて、田舎家に憩ひ、気色の替りたるを賞しつゝ、もはや昼と告来る。洋食の饗応済て、二時也。暇を告て、馬車にて石川徳右衛門氏を問ひ、渡辺福三郎氏、茂木氏、来栖氏を問ふ。五時十分の汽車にて帰宅。不在中、特別教室にて出来事あり。暫時にして相済。

*逍遙(逍遙)

一月三十日 乙未 日曜 孝明天皇祭。雨又晴。

朝遥拝す。

受信 石井健吾夫婦より。

発信 宮城高倉さまえ。秋田岡村艶子え。

(二月三十一日、記載ナシ)

(二月)

二月一日 丁酉 火曜 晴。

課業例の如し。

二月二日 戊戌 水曜 晴。四十四(度)。

課業例の如し。午下、東宮御所に参る。万里小路幸子様に御目に懸り、ゆるくと御咄し申上て、四時帰。今朝の新聞に、松尾臣善男、馬車の怪我二付、松尾氏に行、見舞申入る。夫人及御子息に御目に懸り、虎子様も御出にて、しはらく御咄し致し候。怪我ハほんの軽少のよしにて安心する。

二月三日 己亥 木曜 晴。四十度。

課業例の如し。来客、諸葛増子。

二月四日 庚子 金曜 晴。
今津暉子、稽古す。

受信 伊藤猛吉、市原常子。
発信 市原常子、小林覚子、高知県伊藤猛吉。

二月五日 辛丑 土曜 晴。寒甚。予定 午下二時半より角田氏里開。
課業例の如し。来客、岡田静子、長松菅子。午下二時半より角田氏二行。三時半、石井氏一同来着。石井健吾夫婦、兄桃井夫婦、星野氏令弟、新夫婦、媒酌人志賀氏夫婦、予、李子、星野錫、佐々木夫人、角田夫婦、令息不二男、着席。賀入之式あり。畢而余興、貞水之演芸二席。畢而後宴。実に鄭重也。開き九時にして済。

二月六日 壬寅 日曜 晴。
朝九時より予、正子、基威子と観世会二行。終日楽しく能見物して帰。

二月七日 癸卯 月曜 晴。
課業例の如し。橋岡来る。酒井喜見子さま、御女子分娩。夜十一時、御安産。御婦子共、至而健全のよし也。

二月八日 甲辰 火曜 晴、夜雨。夜二入て雨甚し。
課業例の如し。来客、藪篤子、山尾末子。

二月九日 乙巳 水曜 午頃より晴。
起床。雪降る事、五寸余。雪、又雨。課業例の如し。午下一時より、予、正子、靖、早苗、石山と同じく、観世稻荷祭乱能を見て、五時帰。来客、万里伯。

二月十日 丙午 木曜 晴。
早起。運動を試む。寒さ堪かたく。課業例の如し。志賀氏講話アリ。薩摩艦見物之約束す。宮中え波泉献上、及御局えも同しく配布す。鍋島直柔子逝去二付、工藤使にて柶料三円供す。来客、松尾義夫。酒井伯、御出産二付、大松魚一箱を祝ふ。李子、安田氏え行、一泊。発信 藤袴さま、長谷川梅子、柴田精。

二月十一日 丁未 金曜 紀元節。晴。42(度)。
来客、新田母、其子息。正子病臥。李子、夜二入て帰。長尾氏を招く。井深氏と、寿子の病氣二付立合す。

二月十二日 戊申 土曜 晴。42(度)。
課業例の如し。靖、早苗、代々木石山氏へ行。一泊。本日より、三部経書写ニかゝる。阿弥陀経より始む。来客、片山国嘉細君。

二月十三日 己酉 日曜 晴。

書写す。長尾、井深氏来りて、寿子の病気をよく診★(言十察)して、看護婦をやとふ。即来る。熱度も追々減したり。

*診★(言十察)(診察)

二月十四日 庚戌 月曜 晴。予定 鍋島直柔子送葬、午下一時。代拝人工藤。

朝、書写す。課業例の如し。来客、児玉秀雄氏細君沢子。午下、予、李子と三越二行。詔もの、買物して帰。

二月十五日 辛亥 火曜 晴。

課業例の如し。午下、墓参して帰。

受信 岡村艶子より大伴義正。

発信 藤袴さま、吉田貞子、市原常子。

二月十六日 壬子 水曜 晴。

課業例の如し。長尾氏、井深氏、寿子の病源に面白からぬ兆ありて、婦人科水原氏を呼て、診★(言十察)を乞ふ。卵ソウと云。一同大ぬに心配す。来客、石山すまま、神代郁之進、岡崎忠子、石井初、万里家栄女。夜に至る迄、客つゝき也。本日、門を建る。

*診★(言十察)(診察) *卵ソウ(卵巢) *石山すまま(石山すま子)

二月十七日 癸丑 木曜 雨。

課業例の如し。

二月十八日 甲寅 金曜 晴。

朝、今津照子、原春子、教授す。

発信 小田原浦氏え見舞の菓子出す。

二月十九日 乙卯 土曜 晴。

朝、新聞二浦太郎訃音出たり。実に驚愕甚し。課業例の如し。李子、十二時汽車にて浦氏え悔二行。夜九時帰。石山氏不在。

二月二十日 丙辰 日曜 晴。
予、十二時前より芝薫風会ニ行。五時帰。来客、前川初喜。

二月二十一日 丁巳 月曜 晴。
朝九時より、泰、石山氏、小田原浦氏の葬に会す。

二月二十二日 戊午 火曜 晴。
課業例の如し。

二月二十三日 己未 水曜 晴。

課業例の如し。来客、今津久子、桐島★(金十光)子、少女の友記者星の水裏。

*星の(星野)

二月二十四日 庚申 木曜 晴。55(度)。

課業例の如し。はしめて五十五度になりて春心地す。普請も追々はかとりて、壁ぬり始めたり。来客、岩下幽香子、林里子。

二月二十五日 辛酉 金曜 晴。

朝、今津照子、原春子、稽古す。橋岡来る。李子、万里伯え行、十一時帰。石山氏不在。

二月二十六日 壬戌 土曜 雨。

課業例の如し。午下、橋岡ニ行。素謡会。五時帰。李子、加茂氏え行、夜十二時帰。

二月二十七日 癸亥 日曜 晴。

終日揮毫ものす。

受信 備中大橋草秋、絹本着。大宮智栄。

発信 博文館、大宮智栄、大橋草秋え。神代鶴子。

二月二十八日 甲子 月曜 晴。

課業例の如し。本日より試験画ニかゝる。

受信 斎藤権平より靈芝、福島産竹、着。

(三月)

三月一日 乙丑 火曜 晴。47(度)。

課業例の如し。

発信 土佐伊藤猛吉え画を出す。

三月二日 丙寅 水曜 予定 愛国婦人記念会、午後二時出席。

課業畢る。午下より、愛国婦人会記念会日二付、出席す。会する者、廿人余。余興、薩摩琵琶二曲、講談二席。愛国婦人会始而より、会よりの折詰饗応あり、実に珍らしき事也。四時済て帰。愛国生徒中え菓子を贈る。各五拾銭ツ、。

三月三日 丁卯 木曜

課業例の如し。午下、正子と松屋に行。買物して帰。泰、船鱸に行て帰。

受信 岡村尚子より鴨二羽。水薬師より松風昆布。

発信 備中大橋氏え絹地及廿円為替返却す。

* 船鱸 (船漁)

三月四日 戊辰 金曜 晴。

朝、原春子、角田栄子、稽古す。来客、姉小路延子、大炊駒女。

発信 秋田岡村、河村え。

三月五日 己巳 土曜 晴。

課業例の如し。午前十時より梅若に行。田村氏の招により亡実氏之追善能を見る。八時帰。

三月六日 庚午 日曜 晴。

朝、李子、志賀氏之誘引にて、横須賀に薩摩艦を見る。帰途、東神奈川石井氏に寄り、十一時帰。予、正子、石山氏と観世会に能をみて帰。夕六時也。

三月七日 辛未 月曜 晴。

課業例の如し。来客、伊藤富貴、其二女入学願ひに来る。

三月八日 壬申 火曜 晴。

課業例の如し。来客、牧野前文部大臣夫人、嬢の入学御礼に来らる。棚橋總子。

* 棚橋總子 (棚橋絢子)

三月九日 癸酉 水曜 晴。此夕、雨、又雪、少しにて止。

課業例の如し。来客、子爵山内豊尹内池添氏紹介にて、松井久吉、松南熊代縁談二付来りたれと、不逢而断る。

三月十日 甲戌 木曜 晴。
課業例の如し。志賀氏、講話あり。

三月十一日 乙亥 金曜 晴。 予定 石山基則子七回忌。
(コノ日、記事ナシ)

三月十二日 丙子 土曜 雪。 予定 わか泉会。

昨夜よりの雪、段々と深く成、十一時比迄、牡丹雪と云、盛也。課業例の如し。午下一時より泉会。会員不参多く、先々五十人位にて、講師中島先生、犠牲の快樂にて、真ニ結構に聴聞いたし候。五時散会。夜九時比、志賀重昂氏来。急に頼度事出来のよし。亜爾然丁国百年祭ニ、不計、其写真を石井氏にて見当り、実に千歳の一偶と云。其写真に、亜爾然丁国旗及日本国旗と、下に梅花との、をし画を頼まれ、明十三日中と云、急きものにて、承知致して、先々安心して帰られたり。

*亜爾然丁(アルゼンチン) *一偶(一遇)

三月十三日 丁丑 日曜 晴。 予定 午下一時半より、東洋婦人会、村井氏にて。
午下、桜井省三氏二行。此度、御子息繁と伊達瑠★(王十偉一イ)と結婚ニ付、祝もの持参す。暫時にして帰。

三月十四日 戊寅 月曜 晴。

朝八時之汽車にて、関博直子も亜爾然丁同行出立ニ付、李子御見立ニ行。午下一時四十五分發にて、志賀重昂氏出發。李子、依頼もの漸間ニ合て安心。来客、斎藤房子 入学す、その伯母 附添来る、坂東錫子 十五年振にて、鳥尾智世子 酒卷氏兄の嫁なる新島さと子連来る。田村増子十三年忌ニ付、御志菓子、茶到来。

三月十五日 己卯 火曜 晴、大風。始て六十三度。
発信 新潟竹山屯え。羽後小西富三。土佐伊藤猛吉。

(三月十六日、記載ナシ)

三月十七日 辛巳 木曜 予定 午後六時、帝国ホテル。桜井、伊達より招待。
(コノ日、記事ナシ)

(三月十八日、十九日、記載ナシ)

三月二十日 甲申 日曜 予定 芝清松寺にて薫風会紀年会。

(コノ日、記事ナシ)

三月二十一日 乙酉 月曜 春季皇霊祭。晴。 予定 五年生謝恩会。
来客、安田善八郎、其娘、入学御礼に来る。 五年生謝恩会。

三月二十二日 丙戌 火曜 雪、雨。
生徒試験畢。

三月二十三日 丁亥 水曜 雨。 予定 愛国婦人相談会、午下一時半。
夕七時より北野氏法話あり。 塾生一同聴聞す。

三月二十四日 戊子 木曜 雨、后止。
(コノ日、記事ナシ)

三月二十五日 己丑 金曜 晴。

朝より証書及種々拵ものにいそかし。
発信 大宮智栄、岡村艶、河村晴え。

*いそかし(忙し)

三月二十六日 庚寅 土曜 晴。

第廿三回卒業証書授与式執行。 式場、庭の運動場を、紅白幕を廻らして壇を拵らへ、午下一時参集。 校歌を唱ふ。 卒業生証書を授く。 次、四、三、二、一と順に同し。 校長訓辞。 答辞、増長美津子、卒業生惣代。 四年生田中勝、別辞演舌。 其外一、二、三、四唱歌にて、式厳に畢。 四年教場にて、教員一同、卒業生一同、茶菓、すもしを出す。 外生徒一同え菓子を出す。 閑院宮恭子殿下、茂子殿、尋常六年御卒業。 会する者、三百十五人。

*壇(壇)

三月二十七日 辛卯 日曜 雨、又晴。

朝より諏訪子を訪ふ。 予て依頼ニより、鳥居子の息、兄弟之中(以下、記述ナシ)

三月二十八日 壬辰 月曜 雨、又晴。
朝、散歩して帰る。

三月二十九日 癸巳 火曜 雨。

俄然思ひ付て本郷座寄生木見物に行。 予、正子、李子、泰、寿子、弘、石山氏と、見所二軒にて。 午下四時より始り、十時済て帰。

*二軒(二間)

三月三十日 甲午 水曜 曇。
朝、書写す。阿弥陀経書上る。来客、星野花子。渋沢嬢、其母と入学の御礼に来る。

三月三十一日 乙未 木曜 曇。44 (度)。

朝より角田氏え餞別持参、暇乞する。法人之寄附募集員水上氏、辞職願出たるを聴く。種々相談して帰。帰途、大炊氏を訪ふ。午餐を呼べて帰。来客、万里伯。建築場を見せる。李子、徳田八重、田中勝を連て伊勢参宮出立、夜九時の汽車にて。正子、弘、基威、丹下送る新橋迄。十時帰。寒甚。

(四月)

四月一日 丙申 金曜 晴。45 (度)。

朝、丹下、残り生徒引連、遊歩に出る。四時半、帰校。予、墓参して帰。電報、朝九時、無事着、もゝ子。岩倉公薨去之由、驚愕之至也。女学世界え端午節句、河原なてしこ。発信 女学女界。河村晴え。

*河原なてしこ(河原撫子) *女学女界(女学世界)

四月二日 丁酉 土曜 雨。44 (度)。

昨夜より雪ふりて、雨に替りたり。終日ふり不止。来客、馬場静子母。終日、揮毫ものす。

四月三日 戊戌 日曜 晴。予定 観世行。

朝九時より観世会二行。終日、楽しく能をみる。清久のあし刈、よく出来たり。六時帰。

*あし刈(蘆刈)

四月四日 己亥 月曜 晴、曇。

朝八時、李子より電報にて、八時半新橋着と云。十時頃、李子、徳田八重、無事着。先々名古や協進会、及伊勢参宮も、首尾能して来たり。来客、小早川式子夫人。慈恵会医院内小倉竹代来り、面会す。医院長高木兼寛氏使にて、舊護婦美尾の八重事、昨年より有栖川宮妃殿下之看護申上たるに、是迄になき篤実によく仕へ奉るとて、高木氏え仰戴たるに、高崎正風男の御賞賛の画及御哥とも、絹地したゝめ下され候。急須に茶碗、香炉の画に、

玉の露汲て味はへいひしらぬあまみハにかき中にあるよを

午前早々、霊南坂なる官邸ニ岩倉公之御悔ニ参る。良子殿下を御はしめ、皆々様え御目にかゝり、御神前参拝して帰。この途中、桜田御門の花はしめて咲たるをみて、

桜田の花も咲出るけふしもやみすてゝ消し君そかなしき

*舊護婦(看護婦) *美尾の八重(美尾野八重)

四月五日 庚子 火曜 晴。

入塾、斎藤房、田村源、石井富、岡本英、別府敏、幸島睦、新島元、伊東相、多田堯、横川菊、井上喜佐、井上町、北久保よき、広部春。

*伊東相(伊藤桐)

四月六日 辛丑 水曜 晴。

授業始二付、新入生多きにて、大困雑を極めたり。谷本幸子、病氣二付、保証人え帰しぬ。朝、角田真平氏洋行二付、正子、泰、見立する。午三十分、岩倉公葬式ニ、弘、会葬す。庭中、桜咲揃ふ。

*大困雑(大混雑)

(四月七日〜九日、記載ナシ)

四月十日 乙巳 日曜 小雨。

正午より、予、石山氏と、電車、烏森よりして、高輪、品川、目黒、池袋方面より、目白学修院附近、田畑、上野着。花咲揃ひて面目新なり。処々の風色を賞しつゝ、上野の花をみて、美術工芸展覧会ニ入て観る。已而帰。本日今年の花の見頃也。

*学修院(学習院) *田畑(田端)

四月十一日 丙午 月曜 晴、夜雨。

(コノ日、記事ナシ)

(四月十二日、記載ナシ)

四月十三日 戊申 水曜 晴。 予定 小松宮参殿。

課業例の如し。午下二時より小松宮え参殿す。御久々にて、頼君様と御物語申上る。御雛祭あらせらる。夢香布島、花満開、人出夥し。御静に御咄し、御夕餐を御相伴致して去る。

其節、御家扶大藪氏娘入学を、しゐて御依頼相成て、承諾致したり。

*夢香布島(向島)

四月十四日 己酉 木曜 雨。

予、微恙ありて臥。家内一同、本郷座に行。水難救済会慈善ニ付て也。岡崎忠子さま同道す。

四月十五日 庚戌 金曜 晴。
閑院宮両殿下、本日午前八時三十分御発にて福岡へ成らせられる。朝、新橋迄御見立申上る。午下、江戸川の花を見る。
受信 木津跡見より、みかん箱着。

四月十六日 辛亥 土曜。
来客、岡崎忠、岡村敬。

発信 房州跡見え。大坂美尾野、市原常、岡村つや。

四月十七日 壬子 日曜 晴。 予定 品川碧雲台益田氏、大師会え。

朝、予、李子と、品川益田孝氏之大師会ニ会す。年々の名幅賞款不止。園中、茶席、其外大食堂、午餐鉄鉢飯にて食事。本年ハ、朝来之客、雑沓を究む。三時過帰。帰途、村井氏ニ行。近日養子と結婚の悦を伸て帰。

*賞款(賞翫)

四月十八日 癸丑 月曜 晴。 予定 大森旧友会。

朝、藤井瑞枝誘引ニ来り、予、李子と同道、電車にて新橋ニ着。志賀夫人、藤堂後室、堀田夫人、岩浪稻、坂東錫、中村幸子、長松菅、河村福、高田照、長谷川千賀子、島田信、森堯子、藤堂家来共、一行十六人、九時之汽車にて、天晴朗、風もなく、一同談笑中、大森ニ着。皆徒歩にて行。近道を取て行て、大ぬに違ひ、十丁余の負をしたり。漸、明ほの楼に着。眺望、近くは老松林中人家ありて、田園遠く、海岸画図の如し。汽車の往復、又箱庭の如し。やかて、午餐をゆるくとして、後、瑞枝子ハ鷺箋紙を用意したり。皆々え合作を乞れて、けふの楽遊会を一の苦しみと云ものもあり。然りながら、十年目、廿年目と云て、一同筆を取て、半切二枚ニ合作出来たり。妙々と云。本門寺祖師に参詣して、又義太夫を聞く。今日、旧友、実に此楽しみ究りなし。六時廿分にて帰。一同楽歡甚し。

*鷺箋紙(画牋紙)

四月十九日 甲寅 火曜 晴。

早起。墓参して帰。課業例の如し。書写す。午下二時四十五分、米国津田より電報。栄子、本日男子出産。三男共十九日之出産とは実に奇々妙々の瑞祥、可喜。午下四時頃より改代町え簞子見に行て帰。

受信 房州重たけより。

発信 大宮智栄え。

*簞子(簞笥)

四月二十日 乙卯 水曜 晴。
課業例の如し。来客、小松宮家扶大藪氏細君、娘入学願ひ来る。

(四月二十一日、記載ナシ)

四月二十二日 丁巳 金曜 予定 江の島遠足会。

(コノ日、記事ナシ)

四月二十三日 戊午 土曜 晴。 予定 閑院宮、本日還御。＼橋岡氏謡会。

課業例の如し。橋岡謡会、家内危篤ニ付、中止。午下二時より、村井吉兵衛妹君子、間木五郎と結婚披露会ニ付、帝国ホテルに行。余興はしまりたり。数番みて、食事、茶菓。四時済て帰。

四月二十四日 己未 日曜 晴。 予定 荒木寛畝、八十寿筵会、上野精養軒ニ於て。
朝、散歩して帰。書写す。正午より、予、正子、早苗と、代々木石山子、大炊御門氏を訪ふ。終日遊ひて、夕景帰。来客、船津良子 其父と御礼に来る、藤井瑞枝。

四月二十五日 庚申 月曜 晴。 予定 故跡見信枝七回忌。引続き、元真大師六百五十回遠忌。
朝、散歩して帰。書写す。課業例の如し。

四月二十六日 辛酉 火曜 晴。
朝、行葉して帰。書写す。課業例の如し。奥の移転式執行。すへて清らにして、よその家の様なる心地す。

四月二十七日 壬戌 水曜 晴。
朝、行葉して帰。書写す。課業例の如し。来客、石山すま子。明日、予の引移りニ付、荷物ほこふ。

四月二十八日 癸亥 木曜 小雨。
課業例の如し。予のわたましニ付、大困雑。漸準備整ひたり。夕景、ひる間より箆笥一對拵来る。女教員一同より交肴祝はれたり。本日移転、実に奇麗にて心地よし。夜更るまで大工棚つりにていそかし。十時過、寝に付く。来客、安田千代子。

*わたまし(移徙) *大困雑(大混雑)

四月二十九日 甲子 金曜 晴。

朝、行葉して帰。別科稽古休む。終日かた付ものす。来客、土井早苗、梶山氏。受信 米国津田氏より書至。

四月三十日 乙丑 土曜 晴。

朝九時より大隈伯を訪ふ。御在邸にて種々談話もあり、外、来客も五、六人ありて、前島蜜氏、山本達雄氏二面会す。伯ニは岩崎男えの事願ひたり。快諾致されて安心。伯著国民読本、美麗なる表装したる御本戴く。已而帰。帰途、三井得右衛門氏二行、三井俱樂部一日借受の事、願ふ。近比ゆるされさりし由なから、先々相談すると云。已而帰。補脩生横川種子、退校す。

*前島蜜(前島密)

(五月)

五月一日 丙寅 日曜 晴。予定 久米氏え、新築落成、九時。

朝八時半、大隈伯、増田義一氏、京都、神戸に御出發二付、予、石山氏と、新橋に御見立す。実に盛也。夫より烏森、電車にて渋谷ニ着。車にて久米氏二行。新築之庭園も広々と立派也。能楽堂ハ元之を移して、見所も新たに出来て、翁、鶴亀 久米氏、羽衣 六郎、猩々 万三郎。外に囃子、及仕舞、独吟、一調等、十数番あり。モギ店等ニテ、誠に盛也。日暮 帰。帰途、大炊氏ニて夕餐を呼れて帰。

*モギ店(模擬店)

五月二日 丁卯 月曜 晴。

朝五時より行葉して帰。課業例の如し。来客、島根県知事丸山重俊、其夫人。

五月三日 戊辰 火曜 晴。

五時より行葉して帰。課業例の如し。

五月四日 己巳 水曜 晴。

朝五時より行葉して帰。課業例の如し。朝七時より、予、泰と同じく新橋二行。村井氏欧米漫遊二付、見立る。本日、久米民之輔、星の錫氏、出立を見立る筈、十一時五十分迄待受たるに、見当らずして帰。帰途、山本条太郎氏を問ひ、御夫人に逢而、津田の帰朝を依頼して帰。此時小脇氏より、津田氏帰朝の命令有たと申されて、安心す。此時、中山栄子さまを問ふ。丸柱政子と云人来合せて、久々謡をとて桜川、百万、俊寛、三番謡ふて帰。大坂毎日新聞堀ひさの。

*星の錫(星野錫)

五月五日 庚午 木曜 晴。

朝五時より散歩して帰。課業例の如し。来客、水島鉄也。幼年之弟子、久々に面晤。互に旧を話して時を移す。当時、明治五、六年之弟子也。午下二時より校友会相談会。島田信子、志賀夫人、三宅夫人、星野夫人、鳥尾夫人、増田夫人。先々会場上野精養軒二定む。会日十七日。五時退散す。

五月六日 辛未 金曜 小雨、已而晴。

富美宮内親王、朝香宮鳩彦王殿下の御慶事二付、授業昼迄にて御祝詞申上、休業す。別科稽古日にて、江木秀子 入門す、角田栄子、今津照子。座敷の袋棚彩竹揮毫す。鳩山和夫次男秀夫え寐床懸を祝ふ。朝五時より行薬して帰。書写す。

五月七日 壬申 土曜 晴。

朝より予、正子と、観世清孝廿三年追悼能二行。五時帰。英皇帝崩御、去る六日之夜と云。米国津田より書至。栄子姉妹ハ四月十五日、夫子共至而健全。愈五月三十一日、天洋丸にて帰朝。六月十七、八日比。待かねたり。

*姉妹(分妹) *夫子(母子)

五月八日 癸酉 日曜

朝、小雨。已而晴。書写す。予、正子、李子和観世に能楽をみる。七時帰。来客、西沢公雄細君好子。本日より半旗をかゝくへしと区役所より達せられる。

五月九日 甲戌 月曜 晴。

朝、行薬して帰。課業例の如し。小松宮家扶大藪娘、入塾す。来客、諏訪夫人、岡崎忠子、橋岡氏。

発信 大宮智栄尼え。

五月十日 乙亥 火曜 晴。七十(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、但間菊、秋田千田勇子。

五月十一日 丙子 水曜 雨。予定 午後三時、華族会館、鳩山、菊池結婚披露。

朝、散歩して帰。午下二時半より華族会館二行。暴風雨、実に車も行かねたり。然し、来会者殊の外多人数にて盛会也。五時帰。雨、全晴たり。

五月十二日 丁丑 木曜 晴。八十二(度)。
朝、行葉して帰。課業例の如し。午下、閑院宮え詣し、御息所様え拝謁。種々御咄し申上、
姫宮様方え御教授申上る人、吉田を、今一応頼みくれ様仰承りぬ。已而帰。石山氏二寄り、
暫時遊ひて帰。

五月十三日 戊寅 金曜 曇。 予定 渋谷岩永行、午早々。

四時起。散歩して帰。別科稽古日。角田、今津、江崎、稽古して、予、李子と同しく、十
時出門。觀世勝子と磯部を連て、電車にて目黒岩永氏え約の如く行。さと子、大悦ひにて、
すへての建築、実に物すきに結構に立られたり。正午、会席。献立も主婦の心を尽されて、
京都料理にて味もよし。珍らしくて賞味す。食後、散歩。庭、すなはち山にて、珍ら敷松
あり。広くして一万坪余の地所と云。草花、わらひなと折て、庭のけしきよし。別の座敷
にて、主婦の乞によりて席画す。李子も。御合のもの、御すもし出て、みなよくたうへた
り。五時過、暇を告て帰。

*わらひ(蕨) *たうへ(食べ)

五月十四日 己卯 土曜 雨又晴。

朝、雨。昨夜よりの降りにて、午下晴たり。予、正子と同しく、上野、日本画寺崎公業の
展覧会をみる。又、白馬会を觀て帰。来客、玉枝。

*寺崎公業(寺崎広業)

五月十五日 庚辰 日曜 晴。

朝、墓参して帰。午下、千家男を問ふ。御夫人と暫時談話して帰。来客、姉小路伯。
受信 水島鉄也より書及絹本二葉。

五月十六日 辛巳 月曜 雨。 予定 校友会総会。

朝、天気も晴らしきに、十一時頃より雨ふり出したり。一同、上野精養軒に行。午下一時
開会。続々会員つめ掛る。五百人余、園中に舞台、其外もき店。式場にて予之挨拶あり。
李子も一寸挨拶して、余興、杵屋六左衛門、伊十郎一座にて連獅々、予而、文史劇栗島狭
衣一座、化の皮、お留守番。この喜劇、殊に面白く、二幕畢而もき店雑沓。いなりすし、
若菜めし、おでん、みかん、おせん、籠入らず餅。畢而食事。大はづみ。夕景、めて度相
濟だり。

*もき店(模擬店) *連獅々(連獅子) *予(畢) *文史劇(文士劇) *もき店(模
擬店) *おせん(お煎)

五月十七日 壬午 火曜 晴。

朝、道あしくて散歩をやむ。書写。終日揮毫ものです。本日ハ四月九日二付、誕辰之祝をす。

午餐、洋食を饗す。来客、千田男子。来ル廿三日、新築祝ニ付、親戚を呼ぶ筈ニ付、案内状を出す。

扇子十本 千田男子

短冊二枚 同。

短冊二枚

瀑布、菖蒲之図

田植之哥、水声之哥

中村写真師

発信 水島鉄也え。

五月十八日 癸未 水曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、閑院宮様え参殿。御息所様に拝謁して帰。

五月十九日 甲申 木曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。

五月二十日 乙酉 金曜 晴。 予定 岩倉具定公五十日祭、午後三時。

英帝御大葬。弔意を表して休業す。朝、散歩して帰。午下二時過より靈南坂宮内大臣官邸に故岩倉具定公五十日祭ニ参拝す。立食ありて殊の外雑沓賑々敷、已而帰。

五月二十一日 丙戌 土曜 小雨、晴。

朝、散歩して帰。倫理聞く。午下一時より小集会。原氏、橋本、宮原、今津にて後來の議を談す。夕餐後、退散。

五月二十二日 丁亥 日曜 小雨、晴。 予定 一徳会会長高崎正風、午後一時より華族会館ニテ。

新築落成ニ付、親戚を招く。午前十時より之案内にて、来客、万里小路伯、岡崎忠子、石山吉子、大炊御門家政夫婦、姉小路公正夫婦、長尾数子、雄、新田菊子、鈍興、跡見玉枝、清水初子、小林鍾吉、同娘、十五人。十一時迄ニ皆来られて、応接より二階方々え案内して、予か居間にて茶菓、二階座敷にて午餐を饗す。畢而、下座敷にて余興。燕林講談と落語ありて、後、三八畳にて、御合のもの、御すもし、吸もの等にて、女教員五人来。実に賑々敷、また畜音器などにて、五時過退散。

*鈍興(鈍興) *畜音器(蓄音機)

五月二十三日 戊子 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、少女界安田勝蔵。揮毫ものす。千田男子え純地玉

盤紙半切二枚、扇子二本渡す。本日、閑院宮様え、吉田御請申上たる二付、愈来六月一日より参殿之事、仰せられる。

五月二十四日 己丑 火曜 晴。 予定 三十年祭、三条西季知卿、午下六時迄二紅葉館ニテ。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、向照子病氣ニ付、代理人城みわ、面会す。李子、腫物にて臥。正子、泰、石山、道山辺え盆栽みに行。午下五時前より紅葉館ニ行。床ニ季知卿烏帽子狩衣之肖像ニ、くたけても玉ハ光りの残るへし、の哥あり。皇后宮より、御歌賜りたり。

さやかなる声を残して敷島の道しるへせし山ほととぎす

実に御名哥にて感歎の外なし。食事楼上にて、知己の方多し。古の事のみ談話す。女ハ予一人也。九時帰。

*向照子(迎照子) *感歎(感歎)

五月二十五日 庚寅 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、万里伯、岡崎忠子、愛国婦人記者竹内貞三。受信 神代鶴子より。重たけより。

発信 神代え。房州重たけえ。

(五月二十六日、記載ナシ)

五月二十七日 壬辰 金曜 晴。

朝、散歩して帰。倫理聞く。別科教授日にて、角田栄子、小早川さま、今津暉子、江木秀子、書画の教授す。午下早々、大隈伯を訪ふ。御面談下されて、夫より山県さまを訪ふ。御不在にて不逢。小笠原伯を問ふ。伯と面談して、藪子を問ふ。暫時遊ひて夕食を呼れて帰。

五月二十八日 癸巳 土曜 地久節。晴。

朝九時之汽車、栄を供に連て行。横浜茂木氏を問ふ。鎌倉行にて皆不在。古郷氏を問ふて、幾恵子の霊に香を手向。昼餐を呼れて、森川夫婦よく世話行ととぎたり。それより石井氏を問ふて、四時迄遊ふ。四時の汽車にて帰。

五月二十九日 甲午 日曜 雨。 予定 西沢公雄氏招持、三谷八百善、三時。

朝より雨降り出して、午下二時より李子と同しく三谷八百善ニ行。西沢夫婦之撰待よく行ととぎたり。中島雄二郎男を始として、男の夫人ハ明治十年頃のわか弟子也。小倉国子と云。知頭氏、松下文吉夫婦、其外十五人計。貞介之講訳二番あり。芸妓の踊等あり。さす

かに江戸の料理、殊に珍究りたり。十時帰。

*三谷八百善(山谷八百善) *三谷八百善(山谷八百善) *招待(招待) *講訳(講
釈) *究り(極り)

五月三十日 乙未 月曜 予定 玉枝仕舞会、午下二時三井俱樂部え。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下二時より三井集会所に行。跡見玉枝、恩賜の銀杯披
露会執行。三井三郎助、元之助御夫婦、得右衛門夫婦、英之介夫婦、予、岡崎忠子、石山
すま子、小川直子、其外三十人余の御客にて、仕舞、一調、独吟、梅若万三郎、豊作、最
賀氏、清水氏にて、謡舞盛也。九時帰。

受信 津田弘視より愈五月三十一日、天洋丸ニ乗込。

五月三十一日 丙申 火曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大橋省吾妻幸子、入学頼みに来る。泰、石山正子、
家探しに行、見当りたり。本月一日より、土井藤右衛門病氣平瘡の為に日々一万之念仏を
唱ふ。本日をして満願となる。故に大学病院に土井氏の病を問ふ。先々替りなきよし。暫
時談話して帰。

受信 木津唯専寺より、そら豆着及文。

*平瘡(平癒)

(六月)

六月一日 丁酉 水曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下二時より、予、吉田熊子を連て閑院宮ニ参殿す。御
息所、拝謁仰付られ、三姫宮殿下に御教授申上る。結構なる御反物拝領せられたり。四時
過、退出す。安田千代子娘の入塾あり。夕、岡崎忠子。
発信 木津跡見え。御寺御所え。

六月二日 戊戌 木曜 小雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

六月三日 己亥 金曜 小雨。

書写す。倫理聞く。午下より、予、正子と同しく松屋呉服店に行、買物して帰。大村夫人、
小早川夫人、角田、今津、別科稽古す。

六月四日 庚子 土曜 小雨。

朝、書写す。倫理聞く。

六月五日 辛丑 日曜 小雨。夜、大雨。
朝八時過より、予、正子と觀世に能を見る。養老、通盛、杜若、大仏供養、野守。小雨ふり出して帰。来客、玉枝、絹江。

六月六日 壬寅 月曜 朝雨、已而晴。
書写。課業例の如し。

発信 大宮、市原、岡村え。

(六月七日〜九日、記載ナシ)

六月十日 丙午 金曜 予定 御覽能拝觀、午前九時より。
朝八時半より、予、李子同道、靖国神社能樂堂ニ參觀す。皇后陛下、東宮殿下、妃(殿)下、十時半行啓あらせられる。本日は閑院宮殿下御主催之御能也。番組、

邯鄲 金剛鈴之助 附子

仲光 片山 梅若万三郎

羽衣 松本長 釣針

俊寛 桜間伴馬

大江山 喜多六平太

終日、結構に拝見す。閑院宮兩殿下、三姫宮殿下も成らせられ、御側にて拝見す。

六月十一日 丁未 土曜 晴。

朝、散歩して帰。倫理聞く。午下一時より泉会、會員大勢八十人余にて、二時より中島徳藏先生の倫理之講義、結構也。五時過畢。

六月十二日 戊申 日曜 晴。

朝、散歩して帰。午前十時より、予、李子と同じく、歌舞伎座に行。西沢公雄氏より招待。終日面白く觀て、夜九時帰。

*歌舞伎座(歌舞伎座)

六月十三日 己酉 月曜

岩崎小弥太男より銀地扇面頼来る。

六月十四日 庚戌 火曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。秦、赤城山旅行、出立。来客、大炊駒子。

六月十五日 辛亥 水曜 晴。 予定 松平容大子会葬に、代理久藤氏。
朝、散歩して帰。課業例の如し。津田氏之借家白山御殿町に大掃除を行ふ。家具取揃え引移りの準備す。予も、午下より往てみる。隣家土井藤平氏を問ふ。又、浦氏を問ふて帰。

六月十六日 壬子 木曜 雨。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、堀田伯夫人、酒井喜美子、原礼子。電報、神代鶴子、夜九時汽車にて出発。

六月十七日 癸丑 金曜 陰晴不定。

校外稽古日。小早川、大村、角田、江森、市原、今津、稽古す。朝より、石山、横浜に出張す。午前十一時、鶴子、平沼着にて、迎出る。夜、予、泰、寿子、早苗、酒井きみさま、志賀夫人、新橋迄迎ひに来られる。九時三十分、汽車着。津田夫婦、小兒三人共、皆大元氣にて、千秋一遇の思ひ、嬉しさに不堪候。一同と共に帰宅。当家二一宿。
発信 志賀鉄千代、大宮尼、石井まよ。

六月十八日 甲寅 土曜 晴。

朝、散歩して帰。津田一同、滞在。

六月十九日 乙卯 日曜 晴。

朝、散歩、墓参して帰。津田氏一同、墓参して帰。本日、指ヶ谷五十番地二一同引移る。

六月二十日 丙辰 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。津田荷物、沢山贈る。午下五時、一寸雨ふる。

六月二十一日 丁巳 火曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、中村元嘉夫人。

六月二十二日 戊午 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。夜六時より新声館ニ始めて活動写真を見る、予、泰、寿子、鶴子と。珍らしく、劇の通りの声色にて感心す。十時過帰。

六月二十三日 己未 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。神代鶴子、八時急行にて帰神す。泰、正子、石山、寿、間野、新橋迄見立る。

(六月二十四日、二十五日、記載ナシ)

六月二十六日 壬戌 日曜 陰雨不定。
朝、散歩して帰。絹本一葉、揮毫す。午下三時より閑院宮に詣し、御息所君に拝謁。暫時御談話申上て去る。石山氏を問ふて帰。夜、津田弘視、孝、来る。

六月二十七日 癸亥 月曜 陰晴不定。
朝、散歩して、玉枝を問て帰。課業例の如し。
発信 志賀鉄千代、大宮尼、石井ま代。

六月二十八日 甲子 火曜 雨。
朝、雨にて、書写す。課業例の如し。午下一時より、常務員橋本氏、増田氏にて協議す。六時退散。来客、浦隱居、津田夫婦、馬越恭平氏。皇后陛下ニ汲泉献上、其外、女官様えも出す。

六月二十九日 乙丑 水曜 晴。予定 林賢徳氏行、午後二時。
朝、書写す。課業例の如し。午下一時半より車にて林賢徳氏二行。主人大悦にて、先座敷え通し、此時、玉枝も来り、外、相客、芝野中将、本多男、前田男、小池、宝生氏、外にも二、三人。園中散歩、残りの菖蒲をみる。四季の花もの塔養せられ、趣味多く、元の座敷二付、素謡、忠度、予杜若、藤戸、仕舞もあり。細君会席料理、頗る美味。九時帰。来客、山本条太郎細君操。

受信 小池道子より。
*塔養(培養)

六月三十日 丙寅 木曜 晴。
朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、渡辺稲子。李子、西沢氏え行。
発信 林賢徳氏、書をよす。

(七月)

七月一日 丁卯 金曜 晴。
稽古日。角田、小早川、大村、山尾、今津、江木、市原。来客、有吉久子、津田弘視子供。
小松宮御使、御菓子賜る。
発信 姉小路良子さまえ使出す。

七月二日 戊辰 土曜 晴。

朝、散歩して帰。倫理きく。揮毫ものす。来客、元富田定子、外務秘書官酒井篤太郎氏之細君、津田夫婦、倉持母。夜来、大雨。

七月三日 己巳 日曜 晴、朝大雨。

朝八時半より、予、正子、威と觀世に能をみる。善界橋岡、小督清久、蟬丸山科、阿漕木下、夜打曾我片山、小沢。終日面白う見物す。五時帰。

受信 鎌倉向山為。

*夜打曾我(夜討曾我)

七月四日 庚午 月曜

昨夜より朝にかけて大雨。課業例の如し。琵琶の女有吉久子来る。見台渡す。朝より、正子、栄子、寿子、弘、孝連て親戚廻りする。来客(以下、記述ナシ)。

七月五日 辛未 火曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大阪美尾野政吉、其妹と、木津綿田末治郎の華道を開かれ候に付て、浪花片葉流の命名を願出る。

七月六日 壬申 水曜 晴。予定 午下一時より中山様行。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下一時より青山中山栄子郎に行。素謡会。觀世清久、磯部、予、玉枝、丸林、大隈氏。

加茂 栄子

杜若 丸林

小督 清久

弱法師 花

天鼓 高城

予而御食事。名々独吟等有て、八時帰。

受信 御寺御所より、うつら豆、御なす着。

*予(畢) *名々(銘々)

七月七日 癸酉 木曜 朝雨、后晴。

課業例の如し。来客、西沢好子、原氏使小池清。

七月八日 甲戌 金曜 晴。

朝、書写す。稽古日二付、角田、大村、今津、市原。泰、赤城山より帰宅、夜十時。

七月九日 乙亥 土曜

朝、散歩して帰。倫理聞く。学校委員会、午下一時より私宅座敷にて。鳥尾氏、増田、安田善次郎氏、原、橋本、今津、宮原にて、今後之協議に付、盛に心配致されたり。御合の物、すもし、御吸もの出す。六時過退散。

*協議(協議)

七月十日 丙子 日曜 雨。

朝、書写す。午下早々、宮城姉小路御局ニ参る。良子様、御病気もよほど御快方にて、御尊上にてゆるくと御咄し申上て、五時退く。来客、松方増子 退校御礼ニ来る、岡崎忠子、江守かえ子母。

七月十一日 丁丑 月曜 雨、終日。

朝、散歩して、津田え行。今朝八時半汽車にて中国筋え出發、見立る。課業例の如し。中元之贈り物拵にて、夜る迄かゝる。予、正子、寿子、栄子手伝くれられ、洋食をおごる。

七月十二日 戊寅 火曜 雨。

雨にて書写す。課業例の如し。来客、角田栄子、橋本細君、門野玉子。寿子、朝より里帰りする。午下三時、漸雨はれたり。予、正子と買物二行。五時過帰宅。

七月十三日 己卯 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。扇子二対、画揮毫す。午下、寺内大将官舎ニ、明後十五日韓国御出發ニ付、御送別に参る。大将及御夫人にも御目にかゝり、暫時閑談して帰。御はなむけに予の画扇を上る。

発信 木津美尾野え菓子と綿田氏えの浪華片葉流命名状を出す。

七月十四日 庚辰 木曜 晴。 予定 本日より教授半日間。

課業、七時半より始る。畢而、午下早々、閑院宮様え中元御祝義申上る。御普請中ニ付、両宮、若宮、広、花の宮様も小田原に成らせられ、三姫宮殿下のみにて、御祝義申上て、退る。北白川宮様え詣し、かねの宮殿下も成らせられて、御後室、武、広姫宮殿下に拝謁、暫時御咄し申上て退る。午下三時より松浦伯を問ふ。本日ハ洋人より好まれたるにや、御家の重宝なる名画福のみ虫千方々陳展観して、数奇者に見せられ、探幽法眼、元信、或ハ仏画、春章之元禄時代十幅ものなど、珍らしきもの也、委細見せず。御庭の木陰に、茶菓、立食の設ありて、暫時休憩して帰。

*御祝義(御祝儀) *広(寛) *花(華) *御祝義(御祝儀) *かねの宮(周宮)

*広姫宮殿下(扨姫宮殿下) *名画福(名画幅)

七月十五日 辛巳 金曜 朝、雨甚し。

朝、墓参して帰。倫理畢。午下早々、東伏見宮様え詣す。両殿下、厨子御滞在二付、暫時にして退る。三条様え参る。資君様と久々にて御物語申上て、帰途、志賀氏を問ふ。暫時にして帰。夜、神代幾之進来る。座敷にて久々の閑談。十時帰。来客多し。

*厨子(逗子) *神代幾之進(神代郁之進)

七月十六日 壬午 土曜 雨。

本日、房州より重威帰京申来る。予、四時頃より五軒町に行、久々にて、先々無事之様子を、夕食を共にして帰。

七月十七日 癸未 日曜 晴。

河鱈実文様、十六日午後七時薨去。廿日午後一時葬式。正午、予、李子と同道、薫風会に参る。五時帰。

七月十八日 甲申 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。麻布河鱈家に行、御悔みを伸る。御暇乞も出来、実におやせに成て、可驚。御家の人々に種々御病気の趣承はる。御香を供へて帰。

受信 木津綿田末次郎より書至。

*おやせ(お瘦せ)

七月十九日 乙酉 火曜

朝、散歩して帰。課業例の如し。

七月二十日 丙戌 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。河鱈子葬送ニ工藤代理す。重威、正子、李子、石山、新富へ行。夜十一時過帰。

七月二十一日 丁亥 木曜 晴。88(度)。

土用入。朝、散歩して帰。課業例の如し。今日之暑さ、実に風なく堪かたし。然し結構なる入暑、可喜。午下六時より北野師講演あり。塾生一同聴聞す。角田氏来られて、世界漫遊之談話に驚きたり。種々土産物下さる。

七月二十二日 戊子 金曜 晴。82(度)。

別科稽古日。角田、小早川、大村夫人、正午済て帰られる。来客、土井早苗。受信 鎌倉茂木為女より干魚着。

七月二十三日 己丑 土曜 晴。 81 (度)。

朝九時、生徒一同、運動場に集めて、教授納式を行ふ。一同退散す。塾生も続々帰省す。

七月二十四日 庚寅 日曜 晴。

朝、散歩して帰。九時より暑中見舞二廻る。姉小路、大炊御門、千家男、角田氏、平川町石山氏を問て帰。

*平川町(平河町)

七月二十五日 辛卯 月曜 晴、午下雨。

朝八時、約ありて、堀田伴子夫、和子、予、李子と同しく、青山立山なる乾先生墓所ニ参詣す。また、所々、知人之墓詣て、鍋島直柔子の墓所ニ参りて、電車にて帰。来客、藤井瑞枝、島田信子、志賀鉄千代、夜九時帰らる。重威、橋岡も。選書奨励会幹事長山腰来りて、同会ニ付、婦人之顧問なくてはと云事ニ協義ありて、予を顧問ニ選はれ、是非ニと依頼、されと、かたく断りたれと聞入す。無抛、顧問員と承諾せり。

*協義(協議)

七月二十六日 壬辰 火曜 雨。

朝より雨にて散歩せず。揮毫ものす。

七月二十七日 癸巳 水曜 晴。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。来客、朝より重たけ、終日居たり。

七月二十八日 甲午 木曜 晴。

早起。散歩して帰。揮毫ものす。

七月二十九日 乙未 金曜 晴。

早起。散歩して帰。九時より近藤廉平氏を問ふ。在宅にて、学校寄附之義を懇談す。承知致されたり。番町の大橋新太郎氏を問ふ。是、在宅にて、右之義を依頼する。能承諾してくれられたり。それより土井、浦氏の病を問ふて帰。来客、大炊晨子、石井初子。

*義(儀) *義(儀)

七月三十日 丙申 土曜 晴。 81 (度)。

早起。掃除して書写す。橋岡氏来る。素謡会の相談決して八月三日と定め、先、中山栄子さまを電話にて聞合せたるに、塩原え避暑に御出前にて御断に相成、それにて中止をしようかと思ふ、此あつさに。

*此あつさ(此暑さ)

七月三十一日 丁酉 日曜 晴。85 (度)。
早起。散歩して帰。来客、大炊家政、酒井忠克御夫人。午下、茅町岩崎男を問ふ。長崎御旅行中にて不逢而帰。御寺御所えシイツ、木めりんす袖二組。唯専寺え紹織かたひら一反、シイツ。遠藤え、千代田草履、帛紗。来客、石山すま子、万里小路智子、栄女。智子さま一泊。

発信 大坂唯専寺。美の遠藤え。京都大聖寺え。
*木めりんす(生メリンス) *美の(美濃) *かたひら(帷子)

(八月)

八月一日 戊戌 月曜 87 (度)。
早起。散歩して帰。書写す。来客、山田梅子。午下三時頃より雨と雷鳴。朝九時、津田弘視、九州より帰。夜九時、泰、赤城より帰る。
発信 八軒え書をよす。京城俵氏え。

八月二日 己亥 火曜 晴。
早起。早苗を拉して、散歩して帰。午前九時、雨と雷鳴。
発信 房重たけより鯨細煮着。
発信 浦四三子、齋藤常子、内海寿、今幾多氏、外五軒え。
*鯨細煮(鯨佃煮)

八月三日 庚子 水曜
昨夜、大雨降つゝき、朝三時頃より雨止。今朝、靖子、しづ、房州出立。電話之間違にて、七時十分出帆す。万里小路知子さま、栄女に連られたり。正子、李子、霊岸島、迄送る。来客、岡崎忠子、石山基陽。予、朝より橋場三条様御別邸なる信受院さま暑中に参り、しばらく御咄し致して、小松宮御殿ニ参る。君様と種々御咄し申上、御昼餐戴て帰。
発信 横浜石井健吾氏より書至。

八月四日 辛丑 木曜 晴。
朝六時廿分汽車にて、泰、赤城え出立す。
発信 石井健吾氏、外五軒え。

八月五日 壬寅 金曜 晴、夕小雨。
朝、予、李と同じく、八時十七分急行新橋汽車にて横浜に行、茂木氏を問ふ。栄子在宅に

て、李子ハ渡辺氏え問ふ。其内茂木氏え来り、昼餐を呼はれ、一時頃より来栖氏を問ふ。莊兵衛、貞子に逢ふ。夫より石川氏を問ふ。暫時話して、三溪原氏を問ふ。みな在宅にて、連立て山海の絶景に散歩して、身も心も清く快不可言。前池の荷花盛也。秋の草花も咲出たり。夜十一時頃迄、主人公と談話して、一泊す。

八月六日 癸卯 土曜 晴、少雨。

朝、清涼。庭中散歩して、朝餐を喫して、八時半頃、暇を告て、馬車にて停車場に着。十時廿分発車にて帰。

八月七日 甲辰 日曜 晴。予定 三井得右衛門氏、歌仙会。

朝八時より、予、家内一同八人連にて、裏松子朝貌見に行。盛り過たるよしなから、見事に咲出たり。此時、小雨、已而止。十時帰。直二三井氏に行。集る者三十人計。続々謡はれ、盛也。予ハ、角田川 わき、俊寛シテ、夕顔シテ、鉄輪ワキ。六時二卅六番謡畢、後、食事。九時帰。

八月八日 乙巳 月曜 雨。

昨夜よりの降つゝきながら、約の如く、十時頃より、予、正子、基弘子と同じく石山家二行。又、大炊御門家にて終日遊びて、五時帰。本日、朝八時、弘、蒲郡に立出ず。

八月九日 丙午 火曜 雨。予定 鳥尾子え。友仙縮緬、松魚一箱。

朝もあめ。九時頃より鳥尾子え御出産の御祝に参りて、千世子さま、御子さまも御丈夫そうにて安心。しはらく御話して帰。帰途、松平保男子を問ふて、輛子さまと暫時話して帰。昼頃より、雨全快晴。又六時頃よりふり出したり。強雨となる。

発信 閑院宮三殿下え。森律子、河村、石井え。

*友仙縮緬(友禅縮緬)

八月十日 丁未 水曜 雨。

朝より豪雨、止間なく降りしきりたり。夕刻、鬚大工見舞ニ来りて、是ハ一大事也とて、家物など片付る方よろしと云。まだく左様の事ハなきと落付たれと、雨の勢すさましく、七時頃より手元の物みな棚の上えあけ、畳を上ヶねハならむと、其上、出入のペンキやなど、是非々々畳を上ると云。大せいにて、物置の箆筒、長持、すへてを、教場机を持来りて大々困雜。すへて行届きたり。此時十二時也。さて心配なのハ泰也。点呼ニ出るへき日なき故、急度、本日赤城山を下りたるや。汽車ハ不通と云。此大あれにてハ命を全くして帰る事能はず。是のみ心痛不止。十二時、浅草停車場より電話にて、今こゝに着す、めしの用意して呉と云。一同愁眉を開きたり。其内、市中電車不通のか所もあり如何と云うち、無事帰着す。貌をみて一同大安心。一時に浸水、床上に登り、徹夜、水の中にてす。然し

一人も故障なく無事、安心。
*ならむ(ならぬ) *大せい(大勢) *困雑(混雑) *なき(なる) *か所(箇所)

八月十一日 戊申 木曜 晴。

見舞の人々ハ、とても男にてハ、荒男ならはてなくては、長き竿を持って、乳上までの水中、食物、昼の間ニ合せるつもりながら、急に歩む事かなはず、先二時頃、漸持来ると云。飯盆三組、稲荷すしを入れて、頭にのせて歩みく来る。追々見舞の食物、方々より来る。食事に差支なし。往来ハ船、或ハ戸板、盪舟などにて、巡查助けに来る有さま、目もあてられぬ景況、前代未聞。李子ハ、学校よりハ戸板にのせられて来る有さま。柳橋ハ上え上り、車人を通さぬ、嫁入橋ハ落る。姉小路良子様の御使にて、登代女来る。裏門よりひざ上迄の水の中を歩いて来る。皆々大驚々入たり。

八月十二日 己酉 金曜 晴。

早朝より矢来酒井忠克様、万里伯、大炊もろ前、岡崎忠子、今津照子を始として、夜二入迄、見舞客つゝきたり。

八月十三日 庚戌 土曜 雨。

朝、散歩して、富坂町迎照子を問ふ。同人ハ思ひの外に病氣も快復にて、暫時話して帰。来客、石山基陽。此時、雨しきり也。夜二入て月色はしめて清く、十時寐に就く。二時頃より風雨すさましく、起出してみる。裏川ももはや切れたり。十日の二の舞ならんと、いたく心配す。

八月十四日 辛亥 日曜 雨。

早起。表を見れハ、すへて川となる。昼頃には水も引たり。来客、大炊晨子さま。早苗連て帰られたり。

受信 九日、弘、蒲館より出たる端書着。

*蒲館(蒲郡)

八月十五日 壬子 月曜 晴。

朝、墓参して、此時小雨あり。已而晴。大炊晨子を訪ふ。早苗連て帰。実に快晴、珍らし。清暑。来客、長尾収一、大炊御門駒。水害、本所区民之惨憺たる有さま、餓に叫ぶ声を聞に忍びす。泰ハ此難を救ひたしとして本所区役所え問合せたるに、飯類ハ十分也、日のものつ物にて外の物をと云ふ。パン五箇ツゝを袋に入れて一人前とし、千袋を申付て、一同打寄、パンの袋入をする。パンノ揃はぬため、漸六時前出来。本所区役所え長持に入れて持て行。水火見舞、十一日より本日迄、九十五軒。

夜、月清く、始めて心地よし。夜中、大雷雨、実ニすさまじき事。未だ天候快復に至らず。嗚呼。

*もつ(持つ)

八月十六日 癸丑 火曜 曇。

朝四時起。夜來の雨にて道悪しく、散歩ならず。其内、又大雨甚しく、十時頃止。

発信 神代鶴子え。

八月十七日 甲寅 水曜 雨。

天、折々少雨あり。日々に、水害の悲惨なるをきくに忍ひす。泰、主と成て救助のもの考へて、先、白木綿十反を買求めて百袋をこしらへ、家内中より浴衣、単物、袷、及羽織、繻胖、下のもの、ちり紙二束ツ、を、草履、煙草、マツチ、竹楊枝、あらゆるものを入れて、漸百袋二達し、読売新聞社ニ持行て取扱方をたのむ。正子、此使ニ行て帰。

受信 十三日出十七日着、神代鶴子より。

*きく(聞く) *繻胖(襦袢)

八月十八日 乙卯 木曜 曇。

朝九時より、正子、予、宗慶寺ニ参詣す。石山すが女の廿三年々忌二付、仏事営まれる。正子、姉小路公政、晨子の施主。すま子と参る。仏事畢而、津田氏を問て帰。実業之日本社より、下田哥子、婦人常識養成一本來。見舞人、長尾数子、石山すま子。午下五時頃、弘帰着す。夜、津田一同。朝より冷氣、フラネルに羽織被る。

水見舞、百三十軒。

受信 電報、神戸より、二人ブジ春日丸にて十八日帰。

発信 水見舞返書、十三軒え出す。

八月十九日 丙辰 金曜 曇。

朝、墓参して帰。來客、横浜石井万代、瀬川久可子、新樹典侍使者、仁科こま。午下五時頃、小雨。朝よりの冷氣にて、綿入羽織と云さむさ。ふらねるも常着ハ不殘慰問袋ニ遣して、寐衣不自由。新らしきせるを着て臥。夜十時過より雨強く甚し。

受信 近藤廉平氏二男進一、昨日死体発見致し候由、通知ある。

発信 見舞返事、四軒え。

*ふらねる(フラネル) *せる(セル) *進一(進)

八月二十日 丁巳 土曜 雨、夜大雨甚し。

午下早々、近藤廉平氏を問ふて、愁傷申入る。実ニ悲惨之至也。十七日、漸死体発見致したる由。上州湯之沢なる別荘より二里余の処にて、砂にまみれて居られたるよし。遺骸ハ

ダビにして、今尚松枝にありと云。朋友の死体未発見ニ付、今猶騒策中。実に心中思ひやられて、哀悼之情限りなし。暫時にして帰。
発信 見舞返事、五軒え。

*ダビ(茶毘) *騒策中(搜索中)

八月二十一日 戊午 日曜 晴。八十度以上。

はしめて日影をみて、其嬉しさ限りなく。正子、泰、柏木、長尾氏へ行。来客、山本久子。月清光珍らし。此夕刊にて、角田真平氏、小田原浦氏え趣かれたる途中、酒匂橋電車不通ニ付、渡し船にて、乗人多くして船くつかへり、流されたるよしにて、驚々入。早々電話にて承り候処、右之通にて、両三日養生して帰京可致と申され、先々安心致し候。木津綿田より白木綿四疋着。即返書出す。

受信 八月十二日出千田男子書、同廿一日着。

発信 小滝元司、稲垣銚子、小林覚子え。

*趣かれ(赴かれ) *くつかへり(覆り)

八月二十二日 己未 月曜 晴。

早起。墓参して帰。午下五時頃、号外、

日韓合併内容。日韓合併条約ハ、既に寺内統監と李総理との間に調印終りたるを以て、廿二日、別項記載の如く、臨時枢密院會議の御諮詢を終りたるが、今其内容を洩れ聞くに、韓国皇室の待遇、日本の准皇族となし、朝鮮王と称し……、韓国称号廃止、両班の処分法、条約発表未だし、現行条約消滅、併合の宣言、関係法の公布、総督と寺内統監。

此号外に接して、実に四十余年来之祈望、漸成功したる事、觀喜置く能はず。

*別項(別項) *觀喜(歡喜)

八月二十三日 庚申 火曜 晴。

朝、散歩して、角田氏を問ふ。此度之水難も運よく命拾ひなされ、実ニめて度さ限りなし。栄子と暫時咄して帰。帰途、大炊御門氏を問て、朝飯呼れて帰。来客、中村元嘉氏。午下四時頃、石山基威氏、神戸より帰京す。

八月二十四日 辛酉 水曜 晴。95(度)。

朝、散歩して帰。来客、清水連郎、梶山氏、浦四三子。実に此日の暑さ、先、近年になき、九十六、七度に至る。夜も寐くるし。

日本弘道会取扱、水害罹災者え松魚二円。

発信 寺田善左衛門、青木久衛、外九軒え返書出す。

八月二十五日 壬戌 木曜 晴。92 (度)。
朝三時より起る。犬の泣声やかましくて、とうとう起て四時半より散歩ニ出る。神保町にて来る電車を待て、五時半帰る。

八月二十六日 癸亥 金曜 晴。

本日ハ床の下に石炭くづを入れさせる。来、大竹氏。近藤廉平氏の二男進、青松寺にて葬式。代理工藤氏会葬す。

八月二十七日 甲子 土曜 晴。

朝、散歩して帰。柳町大掃除にて、人夫を雇ふて大掃除させる。泰、赤城え出立す。来客、橋本太吉。漸奥引かせ、下坐敷に住む様に成りて、先嬉し。靖子、房州より帰宅す。万里栄女送りくられたり。夕景、万里栄女来る。

*奥(豊) *引かせ(敷かせ) *来る(帰る)

八月二十八日 乙丑 日曜 晴、雨。

朝より晴雨定まらず。昨夜の雨強し。来客、小林鍾吉氏。

八月二十九日 丙寅 月曜 晴。

午前十時、官報号外。

詔書。

韓国併合条約正文。

併合に関する宣言。

皇室令。

国号改称。

実ニ神宮功后より二千何百年之久しき、漸我か手に入りしハ時機到来と云へし。觀経三、一冊書写畢。市中提灯行列、幾万の数をしらすと云。とてもあふなくて、誰も見に行かず。夜、浦隱居来られる。

八月三十日 丁卯 火曜 晴、夕雨。

来客、津田弘視。予、午下四時半より、上野伊香保に三条信受院様を問ふ。水害の御批難所也。夜七時過、夕餐を会食して帰。帰途、夕立の烈しきに逢ひ、づふ濡にぬれて帰。雷も交ゆ。此夕、五軒町使来り、本日、重たけ、房州より着。

*御批難所(御避難所) *重たけ(重威)

八月三十一日 戊辰 水曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(九月)

九月一日 己巳 木曜 晴。
朝、散歩。墓参して帰。揮毫ものす。今夜、提灯行列にて賑々し。

九月二日 庚午 金曜 二百十日。晴。

早起。五軒町を問ふ。重威、今朝帰房よし承る。已而帰。揮毫ものす。朝、津田夫婦来。今夜十一時汽車にて北海道二行。房州重威より書至。閑院宮三女王殿下、御書戴く。来客、姉小路公正。

受信 美尾野より奈良漬一樽着。

九月三日 辛未 土曜 晴、風。
早起。揮毫ものす。

九月四日 壬申 日曜 晴、風。夜、雨ふる。

早朝、絵事にかゝる。来客、笹川博士母及孫佐野こと子。

九月五日 癸酉 月曜 晴、風。

早起。揮毫す。午下、塾生続々帰塾す。本日、津田氏、第六天四十八番地に移転す。来客、荒井艶子、嘉山梅子。

九月六日 甲戌 火曜 晴、風。

早起。授業始二付、出校、教授す。裁縫助教袋井石子雇入ル。向井照子、病後始而出校す。夕景、閑院宮に詣し、御息所二拝謁す。此度、城三輪子、御教授申上る事を申し、御夕餐を戴て帰。来客、神代郁之進、長与称吉死去二付、東上す。一泊す。

九月七日 乙亥 水曜 晴。

朝、課業例の如し。午前十時頃より雨降り出し、風全止。神代氏、午下四時、告暇而帰。

九月八日 丙子 木曜 雨。冷。

課業例の如し。

九月九日 丁丑 金曜 雨。冷。

課業例の如し。別科教授始をなす。小早川、角田、山尾。

九月十日 戊寅 土曜 晴。
中島氏倫理聞く。泰、赤城より帰着。来客、姉小路伯。

九月十一日 己卯 日曜 二百廿日、好天気。祈願成就。晴。熟。
朝八時半より、予、正子と同じく、観世会二能を見る。実にあつく、九十度位かとおもはる。五時済て帰。

*熟(熱)

九月十二日 庚辰 月曜 晴。予定 閑院宮様え城氏を連参る事。
課業例の如し。午下三時より城みわ子を同道して閑院宮え参殿。御息所様、三姫宮殿下に拝謁仰せ付られ、御茶菓、御羽二重拝領。暫時にして退出す。来客、中谷芳太郎倅。
受信 神代鶴子より。

九月十三日 辛巳 火曜 雨。冷。
課業例の如し。午下、揮毫す。本日、東京府庁より、午前九時登庁相成度と申来。校長代理石山氏出庁す。文部大臣の訓示申聞られたり。来客、新田細君。

九月十四日 壬午 水曜 雨。
課業例の如し。午下、揮毫す。

九月十五日 癸未 木曜 雨、后晴。
課業例の如し。午下、早苗つれて墓参して、津田え行。暫時にして帰。夕餐後、予、有楽座二行。大坂ニワカ、曾我のや一派、青年のニワカを観る。昔日の芸とは、よほど進歩甚し。喜劇の様なり。落しなし。然し笑ふ事ハ実にはそをよる、甚し。十一時帰。

*ニワカ(俄) *曾我のや(曾我廼屋) *ニワカ(俄)

九月十六日 甲申 金曜 晴。予定 別科稽古日。
角田、小早川、山尾、市原。

九月十七日 乙酉 土曜 雨、后晴。
課業例の如し。揮毫ものす。来客、跡見玉枝、清女、勝雄、久々にて面会す。夜、月光。今月はじめて月を見る。

九月十八日 丙戌 日曜 中秋明月。晴朗。
朝より揮毫ものす。来客、大炊御門晨子。今月はじめより、この晴朗珍らし。夕景、散歩

して月の出を見る。実に中秋の月、近年稀に見る所。月、鏡の如し。

九月十九日 丁亥 月曜 晴。 予定 本日より朝八時より二時迄。
課業例の如し。揮毫ものす。正子、泰、寿子、石山氏、本郷座に行。予、午下三時より散歩、墓参して、五軒町大炊氏を問ふ。約の如く夕餐を饗せられる。早苗と同道にて帰。又雨ふる。深夜、月清光。

九月二十日 戊子 火曜 雨。
課業例の如し。来客、土岐氏細君、婦女界記者旭岩次。

九月二十一日 己丑 水曜 彼岸入。晴。
課業例の如し。

九月二十二日 庚寅 木曜 晴、夜雨。
課業例の如し。午下、墓参して、酒井伯を問ふ。暫時にして帰。帰途、棚橋作子の病を問ふ。絢子と久々にて談話する。丁度、野田操も来られて、よく話して帰。来客、浦隠居、土井田鶴子を連て来る。大阪心斎橋筋一丁目岡田幡陽氏之使として市来正吉氏、画之依頼及画事二付て種々懇願致されたり。

九月二十三日 辛卯 金曜 晴。
小早川子、角田、市原、山尾、長谷川、知賀、教授す。岡崎正子。
*岡崎正子(岡崎忠子)

九月二十四日 壬辰 土曜 秋季皇霊祭。晴、夜雨。
実に晴朗。祖先祭り執行す。

九月二十五日 癸巳 日曜 晴。
早起。電車にて、日比谷公園に秋草を見て、秋の爽なるを覚ゆ。ゆるく遙逢(逍遙)して帰。

九月二十六日 甲午 月曜 雨。

九月二十七日 乙未 火曜 晴。

課業畢る。午下三時より曾祖父艾翁百年祭二付、光円寺にて法事執行す。予、正子、泰、李子、寿子、靖子、早苗、参拝す。畢而帰。此夕、御供養、洋食をおごる。

九月二十八日 丙申 水曜

課業例の如し。

受信 本日、房州より梨子着。

発信 房州え帛紗出す。

九月二十九日 丁酉 木曜 晴。

課業例の如し。午下四時より星か岡茶寮に行。本日ハ津田弘視今般南米巡廻二付、馬越恭平氏より同県人招かれ、予も招待を請たり。花房子御舎弟直三郎氏を始め、津田夫婦、席定まるや岳嶂氏席上揮毫ありて、各客人より、此時こそ幸也とて、三島中洲八十一、予等と書画合作、大はつみ。九時、興面白く帰。

*はつみ(弾み)

九月三十日 戊戌 金曜 晴。

稽古日、小早川、長谷川、山尾氏のみ也。珍らしき天気にて、植木や、庭師来る。午下、雨降り出したり。朝、故中井敬所氏★(芒一亡十函)★(芒一亡十啗一口)遺影一冊贈らる。本日一周忌相当のよし二付、午下早々、本所馬場明源寺ニ参詣す。銅像も生るか如くよく出来たり。此寺か則福田新兵衛の墓所にて、花山きみ子、其外島屋一同之石碑ありて、何十年と尋ねたるに寺号も分らず只参り度とのみにて、此春、弟重威本所ニ行て、とう／＼さがし当たるか此寺にて、墓番に申付て掃除させ、一同え御花を上て拝しつゝ只々涙のみ也。帰途、中井氏え行て、新家氏にも逢て、参拝して帰る。

*馬場(番場) *明源寺(妙源院)

(十月)

十月一日 己亥 土曜 雨。

朝、倫理聞く。畢而、揮毫ものす。来客、津田氏、小林氏。本日午前十一時、大和田氏死去。

発信 重威え書をよす。

十月二日 庚子 日曜 晴。

予、正子、石山氏と観世会ニ能を見る。終日楽しんで、五時帰。

十月三日 辛丑 月曜 雨。

課業例の如し。揮毫ものす。

十月四日 壬寅 火曜 晴。

課業例の如し。揮毫ものす。午下五時より、津田氏を問ふ。晚餐をよばれて、帰。大和田氏葬式二付、李子、石山氏送る。

*よばれ(呼ばれ)

十月五日 癸卯 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下早々、予、栄子と同じく、馬越氏を問ふ。不在にて不逢して帰。

十月六日 甲辰 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。揮毫ものす。

発信 千田勇子え書をよす。

十月七日 乙巳 金曜 晴。

稽古日。山尾、長谷川、河村。夕景より雨ふり出したり。来客、津田弘視、弘政。

十月八日 丙午 土曜 雨。

朝、倫理聞く。揮毫ものす。

十月九日 丁未 日曜 雨。

朝八時より、予、李子と同じく能楽堂二行。金剛右京改名之能を見る。岡崎忠子を誘引す。午後より雨晴て、あつさに堪かねたる。終日面白く、五時帰。

十月十日 戊申 月曜 小雨。

課業例の如し。揮毫ものす。来客、岡崎忠子。

十月十一日 己酉 火曜 雨。

本日ハ生徒全部の大宮え遠足之筈、此雨にて中止。四時頃より所々方々より電話しきり也。課業例の如し。来客、朝岡熊二。

受信 北島貞子より林檎着。

十月十二日 庚戌 水曜 雨。

朝より豪雨すさましく、夜二入ても尚甚し。又八月の二の舞ならんと、かねて用心したり。川浚ありたる為、水はき、よく成りて、先々無難也。来客、橋岡氏。

十月十三日 辛亥 木曜 雨。

終日雨甚し。課業例の如し。揮毫ものす。
受信 大坂吉井より松たけ着。

十月十四日 壬子 金曜 晴。
小早川、長谷川、河村、稽古する。久々の天気にて心地よし。揮毫ものす。

十月十五日 癸丑 土曜 雨。
課業畢る。本日ハ津田夫婦の催しにて、跡見挙家六人連にて歌舞妓座にて演劇をみる。立錐の地もなき大入。桐一葉、鎌髭、切小迷悩。九時半済て帰。

*小迷悩(子煩悩)

十月十六日 甲寅 日曜 晴又雨。

(コノ日、記事ナシ)

十月十七日 乙卯 月曜 雨。 予定 日光脩学旅行。

四時起。同行者、五年生、教員共、三十一人、予、泰夫婦、石山、武藤、須川、ゲーツ、中根。上野五時四十五分発車。雨ふり出したり。田畑、王子、赤羽、荒川、蕨、浦和、大宮、蓮田、白岡、久喜、栗橋、古賀、小山、小金井、石橋、すゝめの宮、宇津宮、乗替、鶴田、鹿沼、文挾、今市、日光着。電車ニ乗て、終点岩の鼻着。雨甚しく、予も徒歩にて馬返し迄行。昼飯済、一同、木葉衣、雨衣をきて、袴の裾高くからけ、山中徒歩するさま勇ましく、雨にて車も駕も一丁もなく、徒歩の覚悟したるに、つたやの家内がこの方をおるかせてはならんとて、荷物車一丁あるを、荷物ハ馬に乗せと云。それから、漸、車にて山路を登る。紅葉錦をかさる。雨にぬれたるハ一しほの色まさりて見栄あり。幸湖米屋に着。五時也。此時、雨も晴て、夜湖水に移る月影、丁度十五夜とハ嬉し。其内、一同無事着。山々の雲煙模糊、忽変化して山もなく潮水のみとなる。此真景に恋々として、写生にひ間なし。夜十二時臥。

*田畑(田端) *古賀(古河) *すゝめ(雀) *宇津宮(宇都宮) *潮水(湖水)

*ひ間(暇)

十月十八日 丙辰 火曜 晴。

朝、とく起て黒髪山に登る。日の光りに照す紅葉、幸(以下、記述ナシ)

(十月十九日、記載ナシ)

十月二十日 戊午 木曜 晴。

課業例の如し。明日の準備する。

十月二十一日 己未 金曜 雨。 予定 高尾山遠足執行。
朝、雨甚しくて、又遠足会中止。
受信 福田福之助より。

十月二十二日 庚申 土曜 雨。
課業例の如し。来栖貞子、廿四日結婚式二付、白縮緬一反を祝ふ。生徒全部遠足会、雨中にて中止。
発信 青森北畠貞子え返書。土井早苗え香料、悔状。

十月二十三日 辛酉 日曜 晴。
午下四時、神代郁之進来る。六時、誥別、夜汽車之予程。
*予程(予定)

十月二十四日 壬戌 月曜 晴。
午下三時より、予、李子、石山と同じく、新富え、曾我のやの大坂二わかをみる。五十年来の変化、正しく今の喜劇に変わりなし。実に笑はせる事、ヘソをよると云。十一時帰。
*曾我のや(曾我廼家) *二わか(俄)

十月二十五日 癸亥 火曜 雨。
課業例の如し。来客、新家庭藤田東撰、東京記者富永益三。

十月二十六日 甲子 水曜 晴。
津田弘視南米出発二付、予、正子、泰、石山、新橋二行。十時五十分発車。見送りの人も多く、めて度出立す。予、正子、新橋より帰。昼済て、第六天津田え行。又、加茂氏え行て帰。橋岡来る。
受信 み青木氏より松たけ着。
*めて度(目出度) *みの(美濃)

十月二十七日 乙丑 木曜 晴。
課業例の如し。好天気二付、明日遠足会を定める。又、準備いそかし。
*いそかし(忙し)

十月二十八日 丙寅 金曜 天晴朗。 予定 高尾山に遠足会。
朝四時起。五時出門。飯田町より六時十五分発汽車にて、姫宮三殿下成らせる。天の案しけなく。牛込、市ヶ谷、四ッ谷、信濃町、代々木、新宿、大久保、中野、おぎくぼ、吉祥

寺、堺、国分寺、立川、日野、豊田、八王寺、浅川着。下りて高尾山麓不動院小憩して、是より山ニかゝる、老里。予ハ駕にて行。路ハよくても、実に山高く険★(阡一十俊一イ)、日光にもをとりハなしと思ふ。頂山上ニ達し、薬王院ニ着。三殿下、御徒歩第一にて、驚入たり。主職も御迎ひニ出て御案内申上る。御昼御弁当召上られて、主職御案内、御本堂ニ御参詣にて、御遊ひ、又、一同写真御撮影。巡查、警部、護衛によく勤めたり。二時、帰途ニつく。三時十五分浅川発にて帰。汽車中、楽しみ深く、飯田町着をみな残り惜しかりて、先々一同無事、五時十五分着。退散。

*成らせる(成らせらる) *おぎくぼ(荻窪) *堺(境) *八王寺(八王子) *
険★(阡一十俊一イ)(険峻) *をとり(劣り) *主職(住職) *主職(住職) *

十月二十九日 丁卯 土曜 雨。 予定 休業。

終日、揮毫ものす。志賀重昂氏帰朝ニ付、予、桃子、新橋迄迎ひの筈、雨甚しくて、李子のみ行。

十月三十日 戊辰 日曜 晴、雨。 予定 生徒、琴温習会。

朝十時始。第一曲より廿三曲あり。皆よく調合したり。感心。来客、石山吉子、伴子、大炊御門晨子、駒女、姉小路延子。午下三時頃より雨ふり出したり。五時全畢。

十月三十一日 己巳 月曜 晴。

今般、渡来の朝鮮貴婦人招待、愛国婦人会より、華族会館にて午餐会。閑院宮妃殿下、東伏見宮妃殿下、梨本宮妃殿下を御はしめ、御客、朝鮮人伯爵李址鎔、同夫人をはしめ廿二名。午餐済て、余興手品アリ。休憩室にて鮮人方と談話などありて、四時散会。

*招待(招待)

(十一月)

十一月一日 庚午 火曜 晴。

課業例の如し。

十一月二日 辛未 水曜 雨。

課業例の如し。午下、予、正子、栄子、孝連て、三越に買物して帰。

十一月三日 壬申 木曜 天長節。晴。 予定 外務大臣夜会、九時より。

朝九時半参集。十時奉祝。生徒一同着席。君か代唱歌。次、勅語拝読。陛下万歳。式全畢。茶菓を出す。退散。十一時頃より雨ふり出したり。夜八時より、予、李子と同しく外務省

に行。昨一年をへたてたるにや、参会者非常に多く、外国人之多き、驚くへし。裝飾一層麗しく、桜の大樹二本、花満開。藤、菊、春秋之趣、目も曜く計也。十一時帰。来客、岡村贊男、予の印章を刻して持参せらる。

十一月四日 癸酉 金曜 晴。

別科教授、角田、小早川、志賀清、長谷川、市原、河村、山尾。十二時済。来客、古屋朝子。夜、沢男爵より電話にて、藤子今十時半死去のよし申来る。訃音、福田重固、二日午後二時死去。五日午前九日出棺。芝青松寺ニ於仏葬。直に使ヲ以、香料千疋。野島信え追悼会ニ付備もの二円。

*午前九日(午前九時) *備もの(供もの)

十一月五日 甲戌 土曜 晴。

課業例の如し。揮毫ものす。久米民之助え日月之画二幅対、為持遣す。正子、沢家え行、御夜ときをする。予も沢家え御悔みに行。李子、田中勝子と同じく。

*御夜とき(御夜伽)

十一月六日 乙亥 日曜 晴。 予定 樗会執行。

今津照子、今般奥田竹松と縁談斉ひ、本日帝国ホテルにて結婚披露午餐会ニ招待。十一時より参会。賑々敷相済、新郎新婦、此処より新婚旅行出立。外、各散会。予ハ武者小路え行。万子さま御留守にて、母子に御目にかゝりて帰。

十一月七日 丙子 月曜 晴。

来客、武者小路万子、姉小路公正 其子と、長尾数子、酒井貴美子。

発信 岩代川口誠三郎、遠田静、石井ま代。

十一月八日 丁丑 火曜 晴。

弥明日神戸行。準備ニいそかし。

*いそかし(忙し)

十一月九日 戊寅 水曜 晴。

朝七時出門。予、正子の二人旅行。泰、石山、早苗、丹下新一見立ル。八時十分発車、九時三十八分、国分津より雨降り出したり。山きた辺より空晴渡りて、よき心地す。十二時廿分、静岡にて中食、鯛めし。風色絶好。九時廿分、三宮着。神代夫婦、宝球寺道子、迎ニ来る。皆無事を喜び、此度転居新築にて、奇麗に勝手よろしく。種々語り合ひ、酒肴なと珍らしき美味。十二時就眠。

*国分津(国府津) *山きた辺(山北辺)

十一月十日 己卯 木曜 晴。

朝起出て、洋館より見渡し、前に大石川の流れあり。東より来る坂神電車の橋掛りて、北ハ遊園にて老松所処ニあり。摩耶山、六甲山の白雲中に在り。暫時、此絶景を写す。午下、鶴子案内にて、宝球寺を訪ふ。折節、報恩講執行中にて、本堂ニ参詣。

*坂神電車(阪神電車)

(十一月十一日〜二十二日、記載ナシ)

十一月二十三日 壬辰 水曜

朝、散歩して帰。終日揮毫。来客、鹿島根本寺釈義堂。金五円寄附す。

十一月二十四日 癸巳 木曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、婦人世界記者宮岡直方。神代郁之進、夕餐を饗す。泰、赤城より帰。

*宮岡直方(富岡直方)

十一月二十五日 甲午 金曜 晴。

別科、角田、河村、志賀。

(十一月二十六日、二十七日、記載ナシ)

十一月二十八日 丁酉 月曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(十一月二十九日、記載ナシ)

十一月三十日 己亥 水曜 陰。

(コノ日、記事ナシ)

(十二月)

十二月一日 庚子 木曜 晴。

朝、散歩して、五軒町を問ふて帰。課業例の如し。来客、婦人画報高橋我山。故姉小路千代子正当ニ付、御供養ニ洋食を奢る。

十二月二日 辛丑 金曜 晴。

昨夜雨晴、好天気。別科稽古日。角田、山尾、志賀、河村等也。婦人鑑記者若杉浜子、重威。夜二入て駒込辺火あり。此時八時半、大砲の様なる大音二度、皆々又火薬の破列ならんなど云あへり。時雨ふる。

*大砲(大砲) *破列(破裂) *など(等)

十二月三日 壬寅 土曜 晴。

朝、倫理聞く。李子、横浜二行。正子、靖子、早苗連て、代々木石山二行。来客、金港堂婦人界記者土屋小介、松崎蔵之介細君。夕景、散歩して帰。

十二月四日 癸卯 日曜 晴。

朝八時半より観世納会二行。予、重威、石山氏と也。

十二月五日 甲辰 月曜 晴。

午下三時より本郷座に行。予、重威、李子、石山氏と也。大阪楽天界喜劇を見る。ニワカよりよほと高尚にて工也。実に笑狂したり。十時済て帰。

*ニワカ(俄)

十二月六日 乙巳 火曜 晴。

遠山定子死去二付、香料を備える。

*備える(供える)

十二月七日 丙午 水曜 晴。 予定 故姉小路七回忌、朝十時より。

朝十時より光円寺え参詣。読経、焼香、十一時過畢。一同姉小路え行。御霊前、焼香す。昼餐を饗せらる。来客、関子、河辺男、裏松千代子、松木薫、李子、石山吉子、石山基陽、重威、予也。三時過帰。

十二月八日 丁未 木曜 晴。

訃音、重野安禪先生薨去。十日午下二時、谷中斎場ニテ神葬式。

十二月九日 戊申 金曜 晴、陰。

朝より特別稽古日。角田栄、小早川、志賀、黒沢、川村、市原也。来客、橋本氏細君。午下四時より常務員会。橋本氏、宮原氏、今津、原氏、角田氏也。協議之上、愈寄宿舍建築可決す。畢而八時。

十二月十日 己酉 土曜 晴天。 予定 重野氏葬式、午後二時。

朝より準備ニいそかし。午下一時より泉会忘年会執行。続々来客あり。第一、日韓合邦前夜の御夢、神宮后宮、武内御子を抱く、加藤清正、従者、伊藤博文公、韓人、活人画。此間ニ菓子、せんへい、みかんを出す。第二、喜劇、歌の品定め。第三、精神入人形。おしるこ、茶、菓子等。(第)四、八古の山荘、楠駒姫、活人画。折詰、御取肴、あつき豆飯を出す。第五、子供の舌切すゝめ等にて、全畢。員数、二百六十人。実に盛会也。八時退散。

*いそかし(忙し) *せんへい(煎餅) *あつき(小豆) *すゝめ(雀)

十二月十一日 庚戌 日曜 晴。

午下早々、閑院宮様え参殿。両殿下に、姫宮様方ニも種々御話申上ル。明朝九時御出発、おき縄県え軍艦にて成らせらるゝニ付、御暇申上る。日本館御新築、拝見す。美観也。退て東伏見宮様え参る。御不在にて、伊丹百枝さまを問ふ。しばらく御咄して、岩倉公、大谷伯を問ふて帰。

*おき縄県(沖縄県)

十二月十二日 辛亥 月曜 晴。

来客、婦人画執鷹見久太郎。

*、婦人画執(婦人画報)

十二月十三日 壬子 火曜 晴。45(度)。

来客、大和田未亡人、御礼ニ来る。先生病床日記、蘆船日記附繭こもり、新刊恵る。原田一道氏、代理会葬立せる。

十二月十四日 癸丑 水曜

善光寺大本願誓円尼公、十三日御遷化、万喜宮。予も東宮御所にて親しく御談話申上たる方也。大和田氏病床日記を読む。実に足の立日を待兼たる哥のみにて気の毒ともいたしました。深夜、涙なからに読終りたり。

十二月十五日 甲寅 木曜 晴。

父の明日ニ付、墓参する。来客、重威、山本条太郎氏妻操。

発信 土井早苗え。石山締良尼え。

*明日(命日) *石山締良尼(石山諦良尼)

十二月十六日 乙卯 金曜 晴。

別科、角田、小早川、志賀、黒沢、河村、教授す。来客、重威、中島ゆき子、婦人画報写真師。夜九時頃より雨切なり。十一時晴て、月如鏡。大炊家政氏、四ッ谷右京町え転宅す。

*切(しきり)

十二月十七日 丙辰 土曜 晴。
朝五時頃、雪、はつ雪。又晴たり。倫理きく。揮毫ものす。午下、予、正子と神楽坂辺え買物に行て帰。

十二月十八日 丁巳 日曜

朝、駿ヶ台岩崎小弥太氏を問ふ。執事に逢て帰。田村氏え寄、利七氏に財団法人の成立を咄しす。

*駿ヶ台(駿河台)

十二月十九日 戊午 月曜

仁科駒、岡崎忠子、中田かね、角田真平。

十二月二十日 己未 火曜

朝より、正子、大炊御門、石山すま子方二行。来客、角田氏。

受信 根津嘉一郎。

発信 石井まよ、遠田静、伊丹百重、姉小路局。

十二月二十一日 庚申 水曜 晴。

課業にいそかし。来客、坊城鉄子、石山吉子、久々にて旧を話し、夕景帰る。

*いそかし(忙し)

十二月二十二日 辛酉 木曜 晴。

さく夜、小雨。本日を以て授業納をなす。午下三時迄、勅題歌にて大いそかし。塾生半数帰省す。

*さく夜(昨夜) *大いそかし(大忙し)

十二月二十三日 壬戌 金曜 晴。

朝より続々塾生帰省す。午下二時出門、新橋え行。三時十六分、閑院宮両殿下、沖繩より還御。長途の御つかれもなく、益御機嫌のよきを拝して、有かたかりける。つゝきて予も帰る。市中、暮の景況振はし。

*有かたかり(有難かり) *振はし(賑はし)

十二月二十四日 癸亥 土曜 晴。

来客、中根明 山川健次郎氏子息縁談之義、江守氏妻、浦四三子。

*義(儀)

十二月二十五日 甲子 日曜 晴。
朝より小早川式子様御出にて、絹本一枚揮毫して帰られる。

十二月二十六日 乙丑 月曜 晴。

津田栄子、子供三人、看護婦連て小田原亀屋二行。泰、送付二行。予、弘、靖子も見立二行。十二時、汽車無事に出立す。帰途、種々買物して帰。来客、伊藤富貴子。家の祝にとて、極古代大丸形桐高蒔絵紅葉狩之図、実ニ結構見事之者也。夜九時前、事務所之英、酒乱にて、外出して、其乱暴当るへからず。巡查も来り、せつゆうを加え、十一時頃、漸沈りたり。泰、小田原二行で一泊す。

*者(物) *せつゆう(説諭) *沈り(鎮り)

十二月二十七日 丙寅 火曜 晴。

朝より居間大掃除する。来客、長尾数子、石山基陽。夕景、泰、小田原より帰る。

発信 端書、百五十枚。名刺分、四十枚。

十二月二十八日 丁卯 水曜 晴。

朝より御神前及仏前の掃除する。大清めしつゝ、今年も健康に自身に掃除も出来、歳末の贈りもの、其外、年始之端書も書て、嬉しく、明一月を待のみ也。来客、安田千代、跡見きぬへ、堀田氏御使。

十二月二十九日 戊辰 木曜 晴。

来客、大炊御門家政氏、宮本小一。午下早々、此度移転せられたる四谷右京町大炊御門氏を問ふて、閑院宮様え詣し、両殿下に拝謁仰付られ、沖繩の風物等、種々御談話を伺ひて、御新築の御殿造り、御息所様御先道にて種々拝見申上。松井氏之設計、其苦心察せられる。御暇申上て帰。夜、神代郁之進来る。酒肴を出す。九時後、帰る。

*先道(先導)

十二月三十日 己巳 金曜 晴。

終日、掃除等に忙殺せられり。夜、李子と本郷辺買物に行。暮の売出し賑々しき。当校表門迄見世出て大賑はしゝ。来客、酒井忠克様。

受信 神代鶴子より書至。

*忙殺せられり(忙殺せられたり)

十二月三十一日 庚午 土曜

跡見花蹊日記 明治43年

朝より曇りて、霰、又ハ雪ふり出したり。午下、晴わたる。家内中、次、下部に至る迄、一人の病人もなく、めて度暮也。悦ふへし。

(明治四十三年会計)

入金	月日	摘要	金高
	一月十日	井上君子	五円
	同	藤森つや	二円
	同	伊東よし	二円
	同	松岡静子	二円
	十三日	別府氏より	五円
	同	馬場静子	三円
	同	湯本まつ子	二円
	廿六日	会計より	五十円
	同	博文館より	三円
出金	前月三十日より		
	一月十日迄	旅費	廿三円六十銭
	十三日	車夫え	一円
	同	福引景品	一円
	十五日	西村え香奠	五円
	十六日	姉小路下婢え	五十銭
	同	大炊下婢え	五十銭
	同	○友仙めりんす一反、絹や	三円九十五銭
	ス)		*めりんす(メリン
	同	車夫え	三十銭
	一月廿二日	泉会え寄附	五円
	廿三日	姉さま御下婢え	五円
	十六日	西村え香料	五円
	廿三日	清水え香料	千疋
	同	清水え見舞	三円
	廿六日	松永え香料	三円

廿八日 原女中え 五円
 同 原御車え 一円
 昨十二月分と一月分と合計、金五拾壹円七拾三円(錢)也。払済。

二月分入金
 一月分 会計より 五十円
 二月三日 財より 十五円
 二月四日 今津照子 二円
 廿二日 今津久子 二円
 廿二日 大橋草秋 二円
 廿五日 博文館 三円
 同 大橋草秋 二円
 廿七日 大宮智栄 一円
 同 二月分会計より 五十円

二月分入金
 一日 めりんす種々 四円九十錢 *めりんす(メリン
 ス)
 五日 観世席料 三円
 同 同頭え祝義 五十錢 *祝義(祝儀)
 九日 同稻荷社え 三円
 十日 鍋島直柔子御柳料 三円
 十四日 シヤボン入 廿二錢
 同 草履 四円十五錢
 十七日 糖燐酸一本 七十五錢
 十九日 浦氏え香奠 五円
 二十日 薫風会費、四十三年一月より六ヶ月分 六十錢
 廿日 電車代 九錢
 廿六日 橋岡会費 一円
 車夫え 三十錢
 橋岡え 八円
 廿八日 外に会計より取替金拾八円八拾四錢也。皆済。
 二月分買物

友仙(禪)羽二重、不門 四円 *友仙(友禪)

跡見花蹊日記 明治43年

十四日	高浪帯地、三越	七円四十銭
十四日	紋縮緬一疋	
	紋付染もの、羽二重一疋	
	紋附染もの	
	普門	
三月分入金		
七日	伊藤ふき	五円
同	酒井家	五円
十六日	会計より	五十円
廿日	横川種子	五円
同	日下田富子	五円
同	今津照子	五円
同	今津月謝	三円
廿九日	大宮月謝	一円
三月分入金		
三日	めりんす更紗一反	二円廿五銭 *めりんす(メリン)
ス)		
同	板メよせ切	三円 *よせ(寄せ)
同	更紗よせ切	四円五十銭 *よせ(寄せ)
同	生めりんす	一円十銭 *めりんす(メリン)
同	めりんす	一円十二銭 *めりんす(メリン)
ス)		
同	買もの	卅銭
同	同	卅銭
五日	梅若え香料	二円
同	車夫え	三十銭
六日	観世散(棧)敷代三、四、五、六(月分)	拾二円
同	電車代	廿銭
三月八日	薫風会寄附	一円
十一日	石山基則子七年忌二付	三円
十五日	志賀氏写真額面二付挨拶	二円五十銭
十七日	田村氏え香料	三円
同	両大師え備(供)物	二円
廿日	電車代	廿銭

跡見花蹊日記 明治43年

廿九日	志賀氏額面実費	四円四十七銭
廿九日	本郷座行	十七円
三十日	空気枕	六円八十銭
同	橋岡月謝	八円
同	中形縮緬一反	十円五十銭
三十一日	李子え餞別	十円
三月分		
九日	紋付ひよく綿入仕立、普門	*ひよく(比翼)
十五日請取	紋縮緬綿入二枚重仕立	
廿日	紹小紋染物、紋羽二重染物	一円五十銭
四月一日、右請取、三河や		
四月分入金		
五日	伊東きり子	五円
同	別府敏	五円
同	横川菊	二円
廿八日	会計より	五十円
三十日	横川種子	五円
四月一日出金		
同	紋羽二重染物、三河や	一円五十銭
三日	観世頭え	五十銭
同	電車	十銭
四日	尺五絹三(尺)五寸	一円十九銭
六日	みとめ印	三十銭
同	髪そりとき	八銭 *髪そり(剃刀) *とき(研)
七(ぎ)		
七日	光園(円)寺え寄附	五十円
九日	小遣	五十銭
同	湯呑五人前	一円九十銭
同	小遣	五十銭
十四日	切附(符)	一円九十五銭
同	右水難救済	
廿五日	石山子次え	三円

跡見花蹊日記 明治43年

同	同	同	十四日	十四日	十日	九日	七日	六日	五日	一日	五月一日より入金	廿二日	三十一日	廿五日	十七日	六日	五月一日より入金	三十日	同	同	廿八日	同				
同	同	味のもと	雲丹一瓶	椀一箇	帯上二筋	橋岡え四月分	同僕え	觀世え備(供)物	觀世場代、二日分	正子え預ル	正子え預ル	今津暉	江木秀	清水初子	銀行より引出	會計より	銀行より請取	今津照子	大宮智栄	工藤え取替	三月分雑費	前桐箆笥一組	総桐箆笥一組	車夫銀え	大工え祝義	電車代
		小籠二ツ			*めりんす(メリンス)		五十銭		十二円	十円	十円		二円	五十円	五十円	三十二円九十銭	三円	一円	洗濯もの	十五日五十四銭	十八円	十八円	五十銭	一円	五十銭	
		ゴム垢すり							八円				三円						〆百拾円四十三銭五り也。 *五り(五厘)	一円九十五銭	四十二銭五厘		一円	*祝義(祝儀)		

六月一日入金	東伏見宮	二円五十銭	同日	入場券	廿銭
六日	財団より返金	六十円	同日	休憩所	十銭
廿六日	閑院宮様より	三十円	十四日	手拭懸	三円九十銭
	大村氏	三円	十六日	校友会え寄附	十円
	小早川	三円	廿四日	三条西え玉串	二円五十銭
			廿八日	伊藤子え玉串	二円五十銭
				雑費、久米行	一円廿六銭
				古郷え香料	五円
				新橋行、昼飯	一円四十五銭
				薬代四月分	一円十二銭
				車夫え	三十銭
				工藤氏払	一円八銭
				車夫え	五十銭
				横浜行	三円五十銭
				〆百五拾三円拾老銭五り(厘)也。	
				出金	
				手帳二	廿銭
				下駄	五十五銭
				洋食	三円七十八銭
				あんま	四十銭 *あんま(按摩)
				御客料理	三十九円六十銭
				燕林え	八円
				女中給金	三円
				かめや	五十五銭
				車代	十三円十一銭
				普門	一円八十銭
				洗濯や	廿四銭五厘
				草履	二円三十銭

跡見花蹊日記 明治43年

七月一日入金	今津照子	三円
七月一日	三条家より	二円五十銭
三日	御手本代	六円
四日	来栖貞	五円
六日	田中勝子	七円
七日	横浜原氏	五十円
八日	宮城女官	十五円
同日	今津照子	三円
十日	姉小路良子	二円五十銭
廿七日	江木	二円
	大宮尼	一円
	石川信子	五円
	会計より	五十円
廿八日	「九条家より	二円五十銭
同	「御手本二冊	二円
六月一日出金	電車代	十銭
	橋岡え香料	五円
	夏帯	四円
	めりんす襦伴(裵)	三円九十七銭
	「松や	*めりんす(メリン
ス)	電車代	廿銭
五日	あんま	廿銭 *あんま(按摩)
同	電車	廿銭
廿六日	「法被二枚	四円
廿八日	四月分雑費	十九円
廿九日	紺ちゝみ一反	二円三十銭 *ちゝみ(縮)
同	紺かすり二反、米より	三円三十銭 *かすり(緋)
廿七日	橋岡え月謝六月分	八円
三十日	雑費、正子取扱分	十七円三十三銭
十二日	松平容大玉串料	二円五十銭
十二日	夏のコート、松や	十一円五十銭
三十日	机三脚代	三円六十銭

跡見花蹊日記 明治4 3年

十四日		車夫え祝義	一円 *祝義(祝儀)
同		下婢僕十人分	五円五十銭
同		同同	三円五十銭
同		菓子小箱	五円五十銭
同		書翰箋箱入三組	一円廿銭
同		男扇二箱入	一円十五銭
同		女扇二箱入	二円三十五銭
同		同一罐五十銭	一円
同		をつなあられ一罐九十銭ツ、	
十二日		福々豆四罐	三円六十銭
九日		東コート、和田や	拾四円
六日		下総やえ借(貸)す	廿円
七日		銀行え預ける	五拾円
三日		觀世頭え	五十銭
一日		ゆかた地	一円三十五銭 *ゆかた(浴衣)
一日		ジャヤ香一分	一円 *ジャヤ香(麝香)
一日		正子え小遣	五円
一日		正子え小遣渡す	拾円
一日		本郷貯蔵銀行え預ケル	五拾円
七月分 出金			
廿九日		今津照子	三円
同		田辺栄子	五円
同		藤堂	二円五十銭
同		北白川宮	二円五十銭
十四日		別府	五円
同		堀田家	五円
十三日		田中久子	二円五十銭
同		伊東二人	三円
同		松岡しづ子	二円
十二日		森あき子	五円
十一日		中田富子	十円
同		安田暉子	三円
同		岡崎国良	拾円
同		江守かえ子	二円

跡見花蹊日記 明治43年

廿三日	吳服切手、正子ニ渡す	五円
廿九日	浜野え祝義	一円 *祝義(祝儀)
三十日	橋岡え	五円
三十一日	山田浴衣や	五円八十五銭
同	普門払	五円三十一銭
同	車代、此内五円引	八円五十一銭
同	小包代	八十銭
同	下婢まちえ	三円
同	絹や払	一円五十六銭
同	洗濯代	八十銭
	戊申くらふ(倶楽部)七月分	二十銭
	長野小包代	二十八銭
八月入金		
三日	三条信受院	二円
十六日	銀行より引出す	五十円
十六日	大宮智栄	三円
十九日	新樹典侍	五円
廿一日	川村福子	二円五十銭
三十一日	会計より	五十円
	百拾貳円五拾銭也。	
八月より出		
二日	郵便券	二十銭
五日	横浜汽車賃	一円九十銭
同	原氏女中え	五円
同	御車え	一円
六日	車代	七十五銭
八日	電車代	五十銭
同	大炊女中え	一円
同	石山女中え	一円
同	キヤラコ、絹や	
廿一日	紹羽織仕立、普門え	
廿二日	三銭券十六枚	四十八銭
廿二日	慈善パン代	廿円

九月一日より懸もの

惣計百拾三円也。

同	會計より	五十円
同	松木伯	三十円
同	大村梅子	三円
三十日	小早川式子	六円
同	横川きく	一円
廿二日	三条家	二円
	冬子御手本二	二円
	道部手本	一円
	小早川手本二	二円
	市原月謝	二円
	御手本一冊	一円
	御手本二冊	二円
同	山尾六、七月謝	四円
同	南米岳	四円
十日	阿部米	三円
七日	日下田富子	廿円
同	陽本松子	二円
五日	井上竜太郎	五円
九月一日より入金		

〆金四拾七円〇二銭也。

時事大和七、八(月)分

一円五十銭

罹災者え

塵紙一〆

井深薬代

普門払

絹や払

まちえ給金

足袋五足

洗濯絹ハンカチ

たんす直し代

あんま

一円三十銭

三十銭

七円五十五銭

四十一銭五厘

三円

五十二銭五厘

四十銭 *たんす(箆笥)

廿銭 *あんま(按摩)

十日	白生めりんす一反 *めりんす(メリンス)	
同	黒八丈袖口	
同	襟、絹や	
同	綿入二枚仕立、 裕コート仕立、 普門	
十九日	めいせん一反、絹や	五円十五銭 *めいせん
(銘仙)		
十九日	老尺五寸巾堅粹一枚、勇や	
九月一日より出金		
二日	正子え渡す	十円
同	美術協会七、八(月)分	五十銭
同	戊申倶楽部八月分	廿銭
同	小早川小包	八銭
三日	式尺巾エキヌ(絵絹)九尺式寸	三円四十九銭
四日	香油一瓶	四十五銭
十二日	電車	十銭 *十二日(十一日)
十三日	ふゆえ	一円
十四日	眼鏡のさや	三十八銭
同	同直しもの	三十八銭
十五日	有楽座行	二円
十二日	観世頭え	五十銭
同	弁当料	六十銭
十四日	粹式枚	八十銭
	杉板二枚、勇や	五十銭
十八日	式尺巾エ絵(絵絹)四尺七寸	一円九十七銭
十七日	東洋婦人会七、八、九(月)分	七十五銭
廿八日	尺八四尺三寸	一円六十三銭
十七日	御経料	五円
同	御志洋食	
	橋岡え	五円
三十日	中井氏え香料	二円五十銭
同	墓守え	五十銭
同	小包代	十二銭
同	坐蒲とんタシワタ、カイ(搔)卷綿 二円五十銭 *坐蒲とん(座布団)	
	*タシワタ(足し綿) *カイ卷綿(搔卷綿)	

跡見花蹊日記 明治43年

教育会会費七、八、九(月)分、三十銭
 美術研精会 三十銭
 戊申会九月分 廿銭
 〆金四拾老円三拾銭也
 預金百円也。

十月より入金		
一日	原木みつ子	五円
二日	岩崎画料	五円
	潤筆	二円
十四日	御手本	一円
廿四日	松本麻子	拾円
廿八日	博文館	七円
同	御手本	三円
同	会計より	五十円
三日	銀行え預金	百円
二日	観世能席代	十五円
三日	大和田香奠	五円
同	正子え	十円
	尺八絹本四尺三寸	
九日	能場代	六円
十六日	沢伯香料	五円
十七日	買もの	三円
廿二日	土井え香料	五円
同	三銭印し	一円 *三銭印し(三銭)
印紙)		
廿六日	日光行	九円 *廿六日(十七日)
	日光買もの	五円
廿四日	新富行	五円五十四銭
	郵券	一円
廿七日	石ころも	五十銭 *ころも(衣)
廿六日	羽織紐三組	一円四十四銭
廿九日	間のえ餞別	三円 *間の(間野)

廿七日	菓子	三十銭
廿九日	高尾山駕車	二円十五銭
(廿八日)		*廿九日
	三十一日まちえ給金	三円
	〆金百五拾円七十二銭。	
十月より		
五日	コート仕立、和田や	五円四十七銭
	車代	六十一銭
	洗濯	三円拾二銭五厘
	亀屋	二円六十六銭
	ふ門	
	外に雑費。	
	〆拾六円三十五銭。	
十一月より入金		
四日	横浜古屋	三十円
同	長谷川ちか子	二円
同	河村はる子	一円五十銭
同	市原十、十一(月分)	六円
同	小早川十月より	三円
	角田	一円
	渋木直一潤筆	十円
	三越潤筆	三円
	飯田久潤筆	五円
	会計より	五十円
十一月より出金		
二日	され地	一円六十五銭
三日	肩かけ	二円
四日	福田え香奠	二円五十銭
同	野島信え備(供)物	二円 *備物(供物)
五日	沢男え香奠	五円
六日	コート直し代	一円五十銭
同	謡本製本	十円

跡見花蹊日記 明治43年

十二月より入金	志賀清	二円	神戸行旅費	八十五円
(二日)	河村晴	一円五十銭	観世別会	六円
(同)	遠田月謝	二円	橋岡え	三円
四日	長岡月謝	五十銭	諸雑費	三十円
同日	長岡月謝	五十銭		
同日	小早川式子	三円		
九日	市原常子	三円		
同日	原氏歳末	五十円		
十日	石川たか子	三円		
同日	川村福子	二円		
十一日	博文館潤筆	五円		
十五日	安田輝子	五円		
十六日	志賀喜代	二円		
	会計より	五十円		
十五日	閑院宮殿下	三十円		
十六日	宮城女官六人より	十八円		
十六日	田中久子	二円五十銭		
十九日	中田富子	十円		
同日	森あき子	五円		
同日	田中勝子	七円		
廿一日	九条家	二円五十銭		
廿二日	日下田実	三十円		
廿五日	小早川月謝	三円		
廿四日	御手本代	三十七円		
廿六日	三条家	二円五十銭		
廿七日	藤堂子	二円五十銭		
廿八日	堀田和子	五円		
廿九日	来栖氏	五円		
惣計四百〇壹円也。				

出金	十二月一日	洋食代	一円八十三銭
	四日	谷村え	一円
	(五日)	本郷座	七円
	七日	橋岡え月謝	八円
	八日	反物二反	五円
	同日	遠山定香料	二円五十銭
	九日	重野香料	二円五十銭
		姉小路備(供)もの	二円五十銭
	十日	仕立代、やを	一円
	十三日	工藤え	三十銭
	十四日	尺三四尺五寸絹地	一円五十三銭
	十六日	やまと十二月分	廿八銭
	同日	時事十二月分	四十七銭
	同日	愛国婦人雜誌十二月分二ヶ月分	十四銭
	同日	大口氏哥集御礼	二円
	同日	大口氏歳暮	三円
	同日	小早川絹地代	九十銭
	十七日	手袋	九十銭
	同日	反もの	一円六十五銭
	同日	同	一円廿銭
	同日	メリンス	七十銭
	同日	メリンス帯側	六十八銭
	同日	襟巻	一円四十五銭
	十七日	福草履一	三十六銭
	同日	電車代	廿銭
	十九日	弘え歳末	二円五十銭
	同日	間野え	一円
	廿一日	橋岡月謝	八円
	同日	御ゆるし代	廿五円
	廿五日	あはや払	二円七十銭
	同日	御所御使え	三十銭
		星祭代	五十銭
		羽織紐二	一円十銭
		買物	二円五十銭

*備もの(供もの)

*同(六日)

廿七日 電車代 四十五錢
法被一着 三円廿八錢
廿七日 丹下え 二円五十錢
民え 二円五十錢
事務所女中下部十人え 五円

三十日 毛布一枚 二円廿五錢
同 名刺入 一円五十錢
同 干菓子 三十錢
同 花 三十錢
同 千代田草履 一円廿五錢

三十一日 美術協會十一、十二(月分) 五十錢
三十一日 東京教育会十、十一、十二(月分) 三十錢
同 東洋婦人会十、十二(月)迄 七十五錢
同 戊申婦人俱樂部十一(月)分 廿錢
同 大坂木津小包配達料 廿錢
同 車代 三円九十錢

赤十字二(月)より十二月 八十八錢
婦女新聞 廿八錢
大坂三度小包代 一円十錢
青森迄小包 十二錢

惣計老百十八円廿五錢也。

反物到来
一月十四日 紋羽二重一反 閑院宮様より
同 白絹一反 小泉とみ子
廿三日 紋縮緬一疋 皇后宮御下賜
同 白羽二重一反 姉小路良子
二月 白羽二重一反 石井、角田氏より
同 白紋羽二重一反 浜荻典侍
三月八日 白壁縮緬一 牧野、秋月
廿一日 白縮緬一反 安田善八郎より
四月六日 壁糸織一反 石川富子
同 伊せ崎一反 由比延子 *伊せ崎(伊勢崎)
同七日 白縮緬一反 樋下田鶴子
白紋羽二重一 船津良子

同	八月廿一日	白木綿三疋	綿田末次郎より御礼
同	八月廿一日	白木綿一疋	大坂綿田水見舞
同	廿九日	白絹一	大炊御門家政
同	廿九日	白立縞一	小池栄子
同	廿二日	鳴海一	河合みつ
同	廿二日	絹白縞一	伊藤たね
同	同	越後白縞一	竹田たけ子 *すきや(透綾)
同	同	すきや織一	安田善八郎
同	同	絹織一	牧野、秋月より
同	同	白絹一	大村、小早川より
十四日		伊せ(勢) 崎白縞一	
十二日		伊せ(勢) 崎縞一	
十一日		阿波ちゝみ一	渋谷、松崎より
同		ちゝみ浴衣一	山岡貞代 *ちゝみ(縮)
十一日		さらし縞一反	増田小とみ *ちゝみ(縮)
同		白絹一反	山田照子
十日		博多白織物帯地	松方増子
同		鳴海二反	井深玄真
同		博多白織物帯地	姉小路良子
八日		かたひら白かすり一反	市原常子 *かたひら(帷子) *
ス)		白絹一反	茂木恒子
七日		白絹一反	来栖貞子 *木めりんす(生メリン)
六日		白木めりんす一反	西沢好子 *ゆかた(浴衣)
七日		西沢、白地ゆかた	倉持長子 *ちゝみ(縮)
二日		白ちゝみ一反	有吉久子
七月一日		白絹一反	閑院宮様より
六月廿六日		白壁絹四丈物	大村梅子 *たをる(タオル)
すり(緋)		たをる地一反	藤堂俊子 *あせとり(汗取)
同		あせとり地一反	
五月		白羽二重	原礼子 *かたひら(帷子) *か
同		白紋羽二重一疋	水島鉄也
同		有松しほり一	同 *しほり(絞り)
廿九日		セル地一	田村源子
同		フランネル一	土井早苗
同		かたひら白かすり二反	

九月四日	唐繻子大巾一丈	佐野こと子
六日	白緋一反	高松郷子
七日	西洋緞子机懸	由比氏
	日の丸織一反、御召一反	大坂心齋橋岡田幡陽
十一月四日	白羽二重一疋	神津田鶴子
十二月	白紬一反	山田照子
同	白紬一反	土井藤右衛門
十五日	白紋縮緬一反	山本条太郎
	白縮緬一反	まき野、秋月兩人より
	白紋羽二重一	茂木恒子
	縞御召一	竹田竹子
	白絹一	紅林氏
	めい仙一	鶴見氏
廿四日	白紋縮緬一	閑院宮様より
廿七日	白絹一	高梨氏より
廿八日	白羽二重一	安田千代より
惣計七拾三反也。		
反物贈り物		
一月より	緋紋羽二重一反	角田万代え
	白秋田一反	石井氏え
三月十三日	白紋羽二重一反	桜井繁え
四月八日	八丈一反	松田宗匠え
十九日	白紋羽二重一反	村井君子え
	フランネル一反	大炊師前え
五月六日	寐床懸	鳩山秀夫え
十日	縞白地一反	大坂但間菊え
	伊世(勢)崎紬	富永園子え
五月廿四日	白絹一反	寿子え
六月廿六日	あせ取地	清水え *あせ(汗)
七月	大形浴衣	靖子
	鳴海一反	万千代、早苗
十二日	白ちゝみ一反	万里さまえ *ちゝみ(縮)
同	タヲル縞一反	玉枝え
	越後縮一反	橋本氏え

越後縮一反
白絹一反
鳴海浴衣
晴嵐上布

増田氏え
井深氏え
下婢ますえ
石山陽さまえ

賜(贈)りもの

ゆかた地一、白阿波縮一
伊勢崎縮
銚子ちゝみ
白ちゝみ
白絹一反
紺銚子ちゝみ一
紺かすり一
紺かすり一
鳴海一
白縞一
白地浴衣二反
白羽二重
御召一反 十二月
反もの二反
反もの
反もの
紋羽二重
紋羽二重
白縮緬
御召一
白紋羽二重
伊世(勢)崎一反

重威え *ゆかた(浴衣)
稲子え
はやさまえ *ちゝみ(縮)
吉子さま *ちゝみ(縮)
原氏え
民え *ちゝみ(縮)
まちえ *かすり(紺)
浪え *かすり(紺)
奥え
奥え
神代え
今津照子え
鶴子え
重威え
まちえ
早苗え
志賀氏え
井深氏え
原氏え
橋岡え
千家信子え
梶山氏え

惣計四拾六反也。

雑録

兵庫県御影局内大石停車場下角 神代郁之進